

受け入れられる礼拝

目次

礼拝のふさわしいのはだれか	5
正しい種類の犠牲	10
礼拝における初期の父祖たち	15
アブラハムの信仰	20
神ご自身の心にかなう人	26
礼拝における音楽	31
へりくだりをまとう	36
わたしたちの犠牲の嗣業	41
天の金に投資する	47
白い衣	52
目薬	57
悔い改めと勝利	62
無我の礼拝者	67

セブンスデーアドベンチス
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.88, No.3

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

FAX : (0494) 26-5059

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト : Illustrations:
DesignPics on front cover;
MapResources on pp. 4, 46,
and back cover.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

今期、世界中の安息日学校の生徒たちは、受け入れられる礼拝を研究していきます。礼拝とは何でしょうか。それは神格、偶像、あるいは神聖な対象物に示す敬神的な愛と忠誠を表しています。礼拝を表すギリシャの言葉は、「前でひれ伏す」「敬意を表する」また、「仕える」という概念を組み合わせています。定義づけられたこれらの概念から、礼拝とは神のうちに価値を認め、ことごとくふさわしいお方へわたしたちの誉れと讃美と崇敬とをお捧げすることを示唆していることは明らかです。

人間—わたしたちの墮落した罪深い性質にまったく浸りきっている状態—の礼拝を、純潔にして聖なる神に受け入れられるもの、あるいは受け入れられないものとするのは何でしょうか。それをこれから三か月考えていきます。わたしたちは神の思いと方法はいつもわたしたちの思いや方法よりも高いことを思い起こされます（イザヤ 55:8, 9）。ちょうどわたしたちが自分自身の文化や言葉と違う人々と自由に効果的に通信するためには、しかるべき事柄を学ぶ必要があるように、天の宮廷に近づきつつあるときに、適切な言葉や習慣を学ぶことは、どれほどさらに必要なことでしょうか！これにはわたしたちの側のへりくだりと教えを受ける精神とが要求されています。

わたしたちは「もし真理を信じると公言する人々によって汚れた罪がいだかれているならば、神のご不興は教会にとどまり、教会員が全力をつくして自分たちの罪に対する憎しみと、教会からそれを捨て去る決断とを示さない限り、このお方はご自分のご不興を取り除かれることはない」と警告されています（EJL・G・初刊 1888 年原稿 144）。

「真の礼拝と真の敬神についての正しい概念が民に印象づけられない限り、神聖にして永遠の事柄が通俗的な水準に置かれる傾向はますます増していき、真理を公言する人々は神への侮辱となり、宗教に対する恥となる。彼らは決して、自分たちの教養を受けていない概念をもっては、純潔にして聖なる天を正しく評価することができず、天上の宮廷、すなわちことごとく純潔にして完全であり、またすべての者が神とこのお方の聖潔への完全な敬神の念をいだいている場所での礼拝に加わる準備ができない。」（今日のわたしの生涯 285）

「神のご不興と裁きとは、あくまでも自分自身の道を歩み、自己を愛し、人の賞賛を愛する人々に対して向けられている。彼らはたしかにこの終わりの時代の悪魔的な惑わしへと一掃されることになる。なぜなら、彼らは真理の愛を受け入れなかったからである。主が先の時代に彼らを祝福し誉れを与えて下さったからといって、彼らは自分たちが選ばれた真実な者であって、警告も教えも譴責もいらないうぬぼれている。まことの証人は、「すべてわたしの愛している者を、わたしはしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい」と仰せになっている（黙示録 3:19）。」（EJL・G・初刊 1888 年原稿 764）

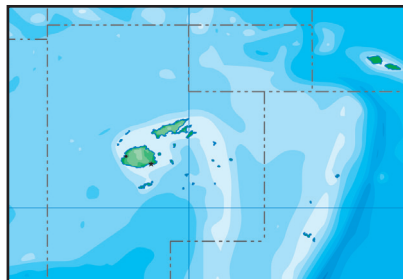
主がこれらの事柄においてわたしたちに恵みを賜るように、というのがわたしたちの熱烈な祈りです。

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

フィジーの礼拝堂のために

南太平洋に位置するフィジーは、太平洋に 1000 マイル (約 1600 キロメートル) にわたってちらばっているおよそ 300 ほどの一群の島々です。二番目に大きい島であるバヌア・レブ島の先端に赤道がかかっており、フィジーは熱帯気候、暑い



日光、砂浜、青々とした植物、豊かな果物、野菜や根菜を享受しています。人口は合計 90 万人ほどです。主に二つの人種で占められており、生粋のフィジー人は 48%、インド系フィジー人は 45%、そしてその他が 7% です。英語が公用語です。多数派の人種は、フィジー語とヒンズー語を話します。ほとんどの生粋のフィジー人はクリスチャン (メソジスト、ローマカトリック、ペンテコステ、セブンスデーアドベンチスト) で、ほとんどのインド系フィジー人は、ヒンズー教かイスラム教です。改革のメッセージがこの沿岸に入ったのは 1974 年にアルフレッド・C・サス兄弟とミラン・ヴコチック兄弟が訪問し、最初の 4 人の魂にバプテスマを授けた時でした。オーストラリア連合は、ジョン・チリチ兄弟とクリス・グレハン兄弟を 1997 年に伝道者として派遣し、1998 年に文書伝道の働きを通して 30 人の魂がバプテスマを受けました。働きは成長し続けています。神の恵みによって、ここの信徒たちは、この世の事物においては貧しくても、なお福音を広めることができ、高原に、町々に、小さな島々にいる新しい魂に伝えています。

「恩恵期間が急速に閉じつつあり、最後の憐れみのメッセージが世に与えられてるべき今ほど、キリストのみ事業における熱心で自己犠牲的な働きが必要とされている時はかつてなかった。わたしの魂は、わたしのうちでマケドニヤの叫びが至る所から……大西洋、広大な太平洋を渡って、海の島々から、『渡ってきて、わたしたちを助けて下さい』と届いているかのようにかきたてられている (使徒行伝 16:9)。兄弟姉妹がたよ、あなたはこの叫びに答えるであろうか。(教会への証 5 卷 732)

わたしたちは礼拝の家とまたわたしたちの本部としてもっばら文書配布のために使用する事務所の敷地が大いに必要です。現在、賃貸料は非常に高額でわたしたちの資金は非常に乏しいです。わたしたちの真剣な祈りは、主が皆さんの心に神の偉大なぶどう畑の一部としてここフィジーにおける必要を印象づけて下さるということ。2012 年 10 月 6 日に第一安息日献金が集められるときには、どうぞこの国に神の栄光のための礼拝堂が建つように惜しみない献金をお願いします。ありがとうございます。捧げ物と捧げる人に主の豊かな祝福がございように。

フィジーの兄弟姉妹より

礼拝にふさわしいのはだれか

「われらの主なる神よ、あなたこそは、栄光とほまれと力とを受けるにふさわしいかた。あなたは万物を造られました。御旨によって、万物は存在し、また造られたのであります」(黙示録 4:11)

「天使の完全は天で失敗した。人間の完全は祝福のパラダイスであるエデンで失敗した。地上でも天でも安全を望むすべての者は、神の小羊を見なければならぬ。」(わたしたちの高い召し 45)

推奨文献：人類のあけぼの上巻 1-16

日曜日

9月30日

1. 宇宙の基礎的な原則

- a. あらゆる被造物の最上の焦点は何であるべきですか。それはなぜですか (ペテロ第一 1:24, 25)。
- b. このことはイエス・キリストとどのようにかかわっていますか (エペソ 3:8, 9; ヨハネ 1:1-3)。

「宇宙の統治者は、その恵み深いお働きをひとりではなさなかった。彼には助け手があった。すなわち、彼の目的を理解し、被造物に幸福を与えることを、共に喜び合える共労者であった。」(人類のあけぼの上巻 2)

- c. 純潔で忠実な天使たちは、長い間何を理解してきましたか (詩篇 89:14-16)。

「愛の律法が神の統治の基礎であるから、すべての知的存在者の幸福は、その偉大な義の原則に彼らが完全に一致することにかかっている。……

創造主のみこころをなすことが、天の軍勢の喜びであった。神の栄光を反映することと神への賛美が、彼らの楽しみであった。そして、彼らが神を最高に愛していた間は、互いの間の愛も信頼と無我の精神に満ちていた。そこには、天の調和を破るものは何一つなかった。」(同上 3, 4)

2. 利己心の起源という嫌な粘液

- a. 天の聖歌隊の指揮者であった一美しい天使一は、どのような奇妙な感情にふけり始めましたか。またその結果は何でしたか（エゼキエル 28:13, 17; イザヤ 14:13, 14）。

「ルシファーは、少しずつ自己を高めようという野望にふけるようになった。……この偉大な天使の栄光のすべては神から与えられたものであったにもかかわらず、彼はそれを自分のものであるかのように思うようになった。彼は、天の軍勢にまさる大いなるほまれを受けていたが、自分の地位に満足しないで、創造主だけに向けられなければならない尊敬を受けたいと望むようになった。彼は、神をすべての被造物の愛と忠誠を受ける最高のかたとするかわりに、自分で彼らの崇敬と忠誠を受けようと努めた。そして、この天使のかしらは、無限の父である神がみ子にお与えになった栄光をほしがり、ただキリストだけが持つておられた力を自分のものにしようと熱望した。

さて、天の完全な平和は破られた。創造主に仕えるかわりに、自分のために働くとするルシファーの気質を見て、神の栄光を第一義的に考えたものたちは、不安の念に捕われた。」（人類のあけぼの上巻 4, 5）

- b. ルシファーが建前上、自分の創造主を礼拝していた方法と、また彼が現実には何をしていたかを述べなさい（マタイ 15:8）。

「天使たちは、快くキリストの主権を認めて、キリストの前にひれ伏して、彼らの愛と崇敬の念をあらわした。ルシファーは、彼らとともに頭をたれた。しかし、彼の心の中には、奇妙な激しい葛藤があった。真理、公平、忠誠などがしつとねたみと戦っていた。聖天使たちの感化は、しばらく、彼を納得させたように思われた。美しい調べにのせて、賛美の歌が聞こえ、歓喜に満ちた幾千もの声がそれに和したとき、悪の精神は消えてしまったように思われた。彼の全身は、言い表わしようのない愛で震えた。彼の心は、罪のない礼拝者たちと一つになって、父とみ子とを深く愛した。しかし、また彼は、自分の栄光を誇る気持ちに満たされた。最上位を求める欲望が舞いもどってきた。そして、彼は、ふたたびキリストをねたむ気持ちにふけた。ルシファーは、彼に授けられた大いなる栄誉を、神の特別の賜物として認めなかったので、創造主に対する何の感謝の念も表わさなかった。彼は自分の輝きと高い地位を誇り、神と等しくなろうと欲した。」（同上 6, 7）

3. 天における危機

- a. ルシファーが天で実行に移した欺瞞的な戦略を見ると、わたしたちはどの警告に注意を払うべきですか（箴言 24:1, 2）。

「ルシファーは、自分の配下の天使たちが、彼を愛し、真心から信頼しているのを利用して、巧みに彼らの心に彼自身の不信と不満の精神とを吹き込み、それが彼のしわざであることが、だれにも気づかれなくないようにしていた。ルシファーは、神のみこころを曲げて伝え、誤解と曲解によって、紛争と不満をかきたてた。彼は、巧妙に彼の話を聞いた者たちにその感情を口にするように導き、自分に都合のときには、天使たちのそのようなことばを利用して、彼らが神の統治と完全に調和していない証拠としてあげた。自分は、神に完全な忠誠を尽くしていると言いながら、神の政府の安定のために、天の秩序と律法の変更が必要であると、彼は力説した。こうして彼は、神の律法に対する反対を引き起こそうと努力し、彼の支配下の天使たちの心に自分の不満を吹き込みながら、表面的には、不満をとり除き、離反した天使たちを天の秩序に従わせようとしているように見せかけた。彼は、最高の狡猾さをもってひそかに不和と反逆を培養しながら、自分の唯一の目的は、忠誠心を促し、調和と平和を維持することであるかのように装っていた。……

「ある天使たち」は、これまでは神の定められた秩序に完全に一致してきたが、測り知れない神のみこころをきわめ得なかったために、不満と不幸を感じるようになった。彼らは、神がキリストを高められることを不満に思った。これらの天使は、神の子と同等の権威を要求するルシファーを支持した。」（人類のあけぼの上巻 8-10）

- b. ついに慈愛に富んだ創造主とその愛の律法に反対する活動をあからさまに扇動するようになったルシファーに嘆願がなされた後、天はどのような行動を取らざるを得ませんでしたか。またそれはなぜですか（黙示録 12:7-9）。

「〔ルシファー〕は、あくまでも、自分の行為の正当を主張し、創造主に対して大争闘をいどんだ。こうして、『光をになう者』であり、神の栄光にあずかる者、神のみ座に仕えていた者であったルシファーは、その反逆によりサタンとなって、神の聖者たちの『敵対者』となり、天が彼に指導と保護をゆだねられた者たちを滅ぼす者となった。」（同上 11）

4. エデンにおける礼拝と地上の危機

- a. 神の創造のもともとの状態を述べなさい(創世記 1:31)。何がご自身のみかたちに特別に造られた被造物を愛するこのお方の大きな愛を表していますか(創世記 3:9)。

「アダムは、人の心の望み得るすべてのものに囲まれ、あらゆる必要を満たされていた。輝かしいエデンの園には罪のかけや衰えのきざしは少しもなかった。神の使いはこの清らかな夫婦と自由に、やさしく話しかけた。楽しい小鳥たちは彼らの造り主に向かって自由な、喜びに満ちあふれた賛美の歌をうたった。おだやかな動物たちはアダムとエバのまわりで楽しく無邪気にたわむれ、彼らのいうことに従順に従った。アダムは完全な人間で、創造主の最も高貴な作品であった。

造り主と彼らの間にはひとすじの影もさしていなかった。彼らは神を彼らの恵み深い父として知っていた。彼らの意志はすべてのことにおいて神のみことろと一致していた。神のご品性はアダムの品性の中に反映していた。」(アドベンチスト・ホーム 16, 17)

- b. どのように神の創造は傷つけられましたか(創世記 3:1-7)。悲しくもサタンの態度を暗示する結果があらわれた最初の霊的な症状を述べなさい(創世記 3:12, 13)。

「[ルシファー]は、自己を高める願望が神にあるとあって、神を誤り伝えた。彼は愛する創造主に自分自身の邪悪な特質を押しつけようとした。こうして彼は天使たちを欺いた。こうして彼は人々を欺いた。彼は彼らが神のみ言葉を疑い、このお方のいつくしみ深さを信用しないように導いた。」(キリストを映して 23)

「アダムは、自分の罪を否定し、言いわけをすることもできなかった。彼は、悔い改めの精神をあらわす代わりに、彼の妻を非難し、ひいては、神ご自身の責任にした。……

女が『あなたは、なんということをしたのです』と問われたとき、彼女は、『へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました』と答えた(創世記 3:13)。『どうしてあなたは、へびをお造りになったのですか。へびがエデンにはいるのをどうしてお許しになったのですか』という質問が彼女の言いわけの真意であった。このようにして、彼女もアダムと同じく、彼らの墮落の責任を神のせいにした。自己を義とする精神は、偽りの父から始まった。この精神は、われわれの祖先がサタンの力に屈服すると直ちにあらわれた。そして、それ以来、アダムのすべてのむすこ、娘はこの精神をあらわしてきた。けんそんに自分の罪を告白するかわりに、彼らは他の人や、環境、あるいは神を非難して、自分を弁護しようとする。彼らは、神の祝福さえ、神に対するつぶやきの理由にするのである。」(人類のあけぼの上巻 46, 47)

5. 現実の絵が明らかにされる

- a. ルシファーはどのような遺産をわたしたち人類にもたらしましたか。またわたしたちは彼のわなから逃れるために、つねに何を念頭に置かなければなりませんか（詩篇 58:1-3; エレミヤ 17:9）。

「罪は自己追求のうちに発祥した。覆うことをなすケルブであったルシファーは、天で第一位になることを望んだ。彼は天の存在者の支配権を得ようと、また彼らをその創造主からは引き離し、自分自身に彼らの尊敬を勝ち取ろうとした。」（キリストを映して 23）

「神のみ子の至上権に異議を唱え、そのことによって、創造主の知恵と愛とを非難することが、この天使のかしらの目的となっていた。キリストの次に位を占め、神の軍勢の中で第一位であった彼は、その偉大な頭脳の能力を、その目的のために傾けようとしていた。」（人類のあけぼの上巻 5）

「神の正義と愛を明らかにする救いの計画は、小羊の血によって贖われることになる人々のあいだ同様に、墮落していない諸世界においても背信に対する永遠の保護手段を提供する。わたしたちの唯一の希望は、ご自分によって神の許へ来るすべてのものを最高に救うことのおできになるお方の血への完全な信頼である。」（わたしたちの高い召し 45）

- b. 全宇宙は、最終的に神について何を理解するようになりますか（ローマ 3:3, 4; 黙示録 4:11）。

「罪の歴史は、神が創造されたすべての者の幸福が神の律法の存在と結びついていることを、永遠にわたってあかしする。大争闘のいつさいの事実が明らかになると、全宇宙は、忠誠な者も反逆者も、異口同音に、『万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります』と言明する（黙示録 15:3）。」（各時代の大争闘下巻 457）

個人的な復習問題

1. キリストが実際だれなのかをわたしたちが理解することは、なぜ重要なのですか。
2. どのような種類の悪い感情と願望が、ルシファーの反逆の引き金となりましたか。
3. ルシファーの墮落の過程をたどりなさい。わたしたちはどのようにしてそのような過程を避けることができますか。
4. 罪の前後におけるわたしたちの最初の両親の品性を対比しなさい。
5. キリストの品性とサタンの品性の間にある大きな相違を説明しなさい。

正しい種類の犠牲

「信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、彼の供え物をよしとされたからである。彼は死んだが、信仰によって今もお話している。」（ヘブル 11:4）

「〔アダム〕が罪のない犠牲をほふったとき、自分の罪がしみのない神の小羊の血を流さなければならないという考えに震えた。この光景は彼に、神のいとし子の死のほか償うことのできない自分の不法の大きさを、より深くよりまざまざと自覚させた。」（神の驚くべき恵み 15）

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 65-74

日曜日

10月7日

1. 罪の結果

- a. 罪が入ってきた後、最初の両親の生活には、どのような変化がもたらされましたか。またこのことはどのように彼らが神に礼拝する方法に影響を与えましたか（創世記 3:16-24）。

「罪を犯す前のアダムは、創造主との隔てのない交わりを楽しんでいた。しかし、罪が神と人間との間を隔ててしまった。そして、キリストの贖いだけが、この深淵に橋をかけ、天から地に祝福と救いがもたらされることを可能にした。人間は、創造主に直接近づくことはできなかったが、神は、キリストと天使たちによって人間と交わられるのであった。……

犠牲の供え物は、神が人間のためにお定めになったもので、罪の悔い改めと約束の贖い主への信仰の告白を、いつまでも思い起こさせるものであった。それは、死をもたらすものは罪であるという厳粛な事実を、墮落した人類に印象づけるためであった。アダムにとって、最初の犠牲をささげるとは、非常に心の痛む儀式であった。彼は、神だけが与えることのできる生命を奪うために、手を振り上げなければならなかった。彼が死を見たのはこれが最初であった。もし彼が神に服従していたならば、人間も獣も死ぬことはなかったことを悟った。」（人類のあけぼの上巻 60, 61）

2. 神はわたしたちのなす選択をご覧になる

- a. 神を畏れる両親によって教えられてきながら、この世に初めて生まれた最初の子孫は、自分たちの神の礼拝においてどのように対照的な選択をしましたか（創世記 4:1-5）。

「アベルは、贖罪の大原則を把握した。彼は自分が罪人で、彼の魂と神との間の交わりを、罪とその刑罰である死とが妨げているのを知った。彼は、ほふられた犠牲、すなわち、犠牲にされた生命をたずさえてきて、彼が犯した律法の要求を認めた。彼は、流された血によって、来たるべき犠牲、カルバリーの十字架上のキリストの死を見た。そして、彼は、そこでなされる贖罪を信じて、自分が義とされ、供え物が受け入れられた証拠が与えられた。

カインはアベルと同様に、こうした真理を学んで受け入れる機会があった。彼は、独断的決定の犠牲者ではなかった。兄弟のうちのひとりが受け入れられて、他のひとりが退けられるように神は定められたのではなかった。アベルは、信仰と従順を選び、カインは、不信と反逆を選んだ。万事はこの点にかかっていた。」（人類のあけぼの上巻 68）

- b. 人々がどのような宗教を公言するかにかかわらず、カインとアベルの経験から、何を学ぶべきですか（ヘブル 11:4; マラキ 3:18）。

「カインとアベルは、終末に至るまで世界に存在する二種類の人々を代表している。一方は罪のために定められた犠牲を受け入れるが、他方は、あえて自分の功績にたよろうとする。彼らの犠牲は、神の仲保のいさおしによらないものであって、神の恵みにあずかることはできない。われわれの罪は、ただイエスの功績だけによって許される。キリストの血の必要を感じない者、神の恵みがほしくても、自分の行ないによって神に受け入れられると思っている者は、カインと同じあやまちを犯している。彼らは、清めの血を受けなければ、罪の宣告下にある。罪の奴隷から解放される道はほかに備えられていない。

カインの模範に従う礼拝者は、世界の大半をはるかに越している。というのは、ほとんどすべての偽りの宗教は、人間自身の努力によって救いを得ることができるという同じ原則に基づいているからである。」（同上 68）

3. 危機に瀕している問題を理解する

- a. なぜわたしたちは今日、ニューエイジ（精神世界を大切にする考え方のこと）や同様な運動の多くのまじめな信奉者の危険な哲学や慣習に対して、警告されているのですか（使徒行伝 4:10-12; テモテ第一 6:20, 21）。

「人類は贖罪ではなく、文明の発達、すなわち、洗練と向上と更生とが必要であるという人もある。カインが、犠牲の血をぬぎにした供え物によって、神の恵みを得ようとしたように、これらの人々も贖罪を度外視して、神の標準にまで人類を高めようとするのである。カインの生涯は、どのような結末に至るかを示している。また、キリストを離れた人がどうなるかを示している。人類は、自分を再生させる力を持ち合わせない。それは、神に向かって向上するのではなく、サタンの方へ墮落する傾向がある。キリストだけがわれわれの希望である。」（人類のあけぼの上巻 68, 69）

- b. カインとアベルの歴史によって例証されているように、キリストの贖罪を信じる真の信仰には何が包含されていますか（ローマ 3:23-31; ヤコブ 2:22, 17）。

「キリストに全的によりたのむ真の信仰は、神のすべての要求に従うこととなってあらわれる。アダムの時代から現代まで、大争闘は神の律法に従うことに関してであった。神の戒めのどれかを無視していながら、神の恵みにあずかる権利を主張した人々が各時代にあった。しかし、聖書は、行ないによって『信仰が全う』されることと、服従の行為がなければ、信仰は『死んだ』ものであることを明らかにしている（ヤコブ 2:22,17）。」（同上 69）

「カインとアベルは大きな二種類を代表していた。アベルは祭司として厳粛な信仰のうちに自分の犠牲をお捧げした。カインは自分の地の実りを捧げたいと望んだが、自分の捧げ物に獣の血を結びつけることを拒んだ。彼の心は、獣の血を捧げることによって自分の罪のための悔い改めと救い主を信じる信仰を示すことを拒んだ。彼は自分の贖い主の必要を認めることを拒んだ。これは、彼の誇り高い心にとって、依存であり屈辱であった。

しかし、アベルは将来の贖い主を信じる信仰によって、神にカインよりも受け入れられる犠牲をお捧げした。獣の血である彼の捧げ物は、自分が罪人であること、そして取り去るべき罪があること、そして自分が悔いて、将来の大いなる捧げ物の血の力を信じていることを示していた。」（コンポジション 22, 23）

4. カインのうぬぼれ

- a. いわゆるカインの捧げ物は、どのように本当の意味においては反逆の行為なのか（創世記 4:6, 7）。

「サタンは不信とつぶやきと反逆の親である。彼はカインの犠牲が拒否され、アベルのものが受け入れられたために、彼を自分の無実の弟と神に対する疑いと狂気で満たした。そしてカインは正気を失い狂気のうちに自分の弟を殺した。

犠牲の捧げ物は、獣の血によって象徴されていた捧げられるべき大いなる捧げ物を通してなされる神の許しについての、人に対する永続的な誓いとなるために制定された。この儀式を通して、人は悔い改めと、従順と、来るべき贖い主を信じる信仰を示すのであった。カインの捧げ物を神に対する攻撃としたのは、神のお定めになったご命令に対する明け渡しと従順が欠けていたからである。

彼は神にただ地の産物だけをお捧げするという自分自身の考えの方が高尚であって、他に対する依存を示し、それによって自分自身の弱さと罪深さを表現する獣の血の捧げ物ほど屈辱的でないと考えた。カインは贖罪の血を軽んじた。」（コフロンティョン 23）

- b. アベルに関してカインの問題を説明しなさい（創世記 4:8-10; ヨハネ第一 3:12）。

「カインは自分の罪を認めず、かえって神の不正をつぶやき、アベルをねたみ、憎んだのである。彼は、怒って弟を非難し、自分たちに対する神の処置について弟と論争を始めようとした。アベルは、柔和に、しかも恐れることなく、断固として神の公平と恵みを弁護した。彼は、カインの誤りを示し、彼がまちがっていることを納得させようとした。アベルは、両親が直ちに死の刑罰を受けるはずであったのに、彼らをお助けになった神のあわれみを指摘して、神が彼らを愛されたのでなければ、汚れないきよいみ子を、彼らが当然受けるべき刑罰を受けるためにお与えになることはないと言説した。こうしたことは、みな、カインを激怒させた。理性と良心は、アベルが正しいことを認めるのであるが、これまで従順に彼の勧告に従った弟が、今度は彼にさからい、彼の反逆に同調しないのを怒ったのである。彼は、激しい怒りにもえて弟を殺してしまった。」（人類のあけぼの上巻 70）

5. 不朽の原則が例示された

- a. カインの宗教は最終的にどのような実を結びましたか (ヨハネ第一 3:13; ヨハネ 3:20)。

「カインは弟を憎んで殺した。アベルが悪事を行なったからではなくて、『彼のわがが悪く、その兄弟のわがは正しかったからである』(ヨハネ第一 3:12)。そのように、どの時代にあっても、悪人は自分より善良なものを憎んできた。アベルの従順とゆるがない信仰の生活は、カインにとって絶え間ない譴責であった。『悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとはしない』(ヨハネ 3:20)。神の忠実なしもべたちの品性に反映する天の光が明るければ明るいほど、不信心な者の罪が明らかに示される。そして、悪人たちは何とかして自分たちの平和を乱す者を滅ぼそうとするのである。」(人類のあけぼの上巻 70, 71)

- b. 神がカインを取り扱われた方法から、わたしたちは何を学ぶことができますか (創世記 4:11-16)。

「カインとその子孫の暗い歴史は、罪人が永遠に生きて神に反逆しつづけたならば、どういうことになるかを示した。……

サタンは、神の性質と統治とを偽って伝えるために、激しい勢いと数多くの欺瞞によってたえず働いている。彼は、広範囲に及ぶ組織的計画と驚くべき力をもって、世界の住民をだましておうとうしている。永遠で全知であられる神は、初めから終わりを見通される。悪を処理なさる神の計画は、遠大で包括的である。神の目的は、反逆をしずめることだけでなく、全宇宙に反逆の性質を実証することであった。神の公平とあわれみの両方を示す神の計画があらわされ、悪の処置に関する神の知恵と義は完全に擁護された。」(同上 72, 73)

個人的な復習問題

1. わたしたちはしばしばアダムの罪について語りますが、彼の悔い改めから何を学ぶことができますか。
2. カインとアベルによってどのような二種類の人々が例証されていますか。
3. 今日、人類が発展しているという主張に対して、どのように応じるべきですか。
4. 神に対するカインの恨みは、なぜ不公正で不合理なのですか。
5. カインの態度をとる人々と直面するとき、何がわたしたちに平安を与えますか。

礼拝における初期の父祖たち

「信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。」(ヘブル 11:6)

「キリストはまもなく来られる。神の御使たちは、わたしたちを自分自身と地上の事柄から引き離そうと努めている。彼らの働きが無駄にならないようにしなさい。」(キリストを映して 312)

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 87-104

日曜日

10月14日

1. エノク

- a. エノクの経験を、靈感はどのように述べていますか(創世記 5:18-24; ヘブル 11:5)。このような効果のある礼拝によって得られた関係を通して、エノクは昇天前に何を示されましたか(ユダ 14)。

「エノクは神が預言の霊によって自分に表して下さったすべてのことを忠実に民にくり返した。ある人々は彼の言葉を信じ、自分たちの悪に背を向けて、神を畏れ、礼拝した。そのような人々はしばしば隠居所にいるエノクを尋ねた。そしてエノクは彼らを教え、神が彼らにご自分のみ旨についての知識を与えて下さるように彼らのために祈った。ついに彼はある期間引きこもることを選び、人々が彼を探すことを許さなかった。なぜなら、彼らは神との聖なる瞑想と交わりを妨げるからであった。彼は彼を愛し、彼の知恵の言葉を聞く人々の社会からつねに自らを隔離したのではなかった。また墮落した人々から完全に自分を分離したのでもなかった。彼は折々に善人や悪人に会い、不信心な者をその悪の道から引き戻すために労し、また神の知識と畏れのうちに彼らを教えた。彼は神の知識をもっていた人々に、神にもっと完全に仕えるために教えた。彼はその信心深い会話と聖なる模範によって、自分が彼らの益となる限りは彼らと共にいた。それから神との交わりと、神だけが彼にお与えになることのできる神聖な知識に飢え渴いて、すべての社会より一義人から、嘲る偶像礼拝者から一身を引いて一人でいたのであった。」(預言の霊 1 巻 62, 63)

2. ノアの時代に

- a. ノアが生まれた時代を述べなさい (創世記 6:1, 2, 5, 6, 11, 12)。
- b. イエスは、どのようにノアの時代をわたしたちの時代と比較なさいましたか。そしてわたしたちはこれによって何を理解すべきですか (ルカ 17:26, 27; マタイ 24:37-39)。

「神は、洪水前の人々が、飲み食いすることを非難されたのではなかった。神は、彼らのからだの必要を満たすために、地の産物を豊富にお与えになったのである。彼らの罪は、与え主であられる神に感謝せずに、これらの賜物を受け、なんの抑制もなく食欲を満たして、墮落したことであった。彼らが結婚することは正当なことであった。結婚は、神が制定されたものである。これは、神が定められた最初の制度の一つであった。神は、この儀式に特別の指示を与え、それを神聖で美しいものとされた。しかし、人々は、こうした指示を忘れ、結婚を悪用して情欲を満たすものにした。

今日も同じ状態である。それ自身、正当なことが、過度に行なわれている。なんの制限もなく、食べたいだけ食べている。今日、キリストに従うと公言し、その名がかりつばな教会員名簿にしろされている者が、飲酒家と飲み食いしている。不節制が道徳的、また霊的能力をにぶらせて、いやしい情欲にふけらせるに至る。情欲を制することが、自分たちの道徳的責任であることを感じないものが非常に多い。彼らは、情欲の奴隷になる。人々は感覚の快楽を求めて生き、この世界と現世のためだけに生きる。社会のいたるところに浪費が行なわれている。ぜいたくと虚飾のために、誠実は犠牲にされる。急いで富を得ようとする者は、正義を曲げ、貧者をしいたげ、今なお、『奴隷と人びとの魂』は売買されている。社会の上層部にも下層部にも、詐欺、贈収賄、盗みなどが、堂々とまかり通っている。新聞の報道は、殺人の記事で満ちている。冷酷で理由のない犯罪が行なわれ、人道は全く地に落ちたかのように思われる。こうした残酷なことがありふれたことになり、人々は、それを話題にもせず、驚きもしなくなった。」(人類のあけぼの上巻 101, 102)

「今日結婚関係はどうであろうか。それはノアの時代のように、ゆがめられ、汚されてはいないであろうか。離婚に次ぐ離婚が新聞に掲載されている。これこそ、キリストが洪水前に人々が『めとり、とつぎなどしていた』と言われるときの結婚である (マタイ 24:38)。」(原稿 7 巻 56)

3. ノアの信仰

- a. ノアが生きていた時代に、彼を他と異なる人としたのは何でしたか（創世記 6:8, 9, 14）。
- b. ノアが神を礼拝したとき、わたしたちはこの父祖とその造り主の関係について、何を見極めることができますか（創世記 6:17-22; 7:1, 5, 23; 8:15-20）。
- c. ノアと彼のいうことを聞いた人々との生涯のうちに見られるキリストとサタンの大争闘を述べなさい（ヘブル 11:6, 7）。

「ノアは、世に警告のメッセージを伝えるとともに、その行為によって、自分が真剣であることをあかしした。こうして彼の信仰は完成され、明白に示された。彼は、神が仰せになったことを、そのまま信じる模範を世に示した。彼は、全財産を箱舟につぎこんだ。彼が、この巨大な舟を陸上で建造しはじめると、群衆がこの奇妙な光景を見、風変わりな預言者の語る熱烈な言葉を聞こうと、四方から集まってきた。箱舟の槌音の一つ一つは、人々に対するあかしであった。

最初、多くの者は、警告を受け入れたように思われた。しかし、彼らは、真に悔い改めて神に立ち帰ったのではなかった。彼らは、罪を捨てようとはしなかったのである。洪水が来るまで、しばらくの間、彼らの信仰は試みられたが、彼らはその試練に耐えられなかった。彼らは、一般の不信仰に負け、ついに、以前の仲間といつしょになって、厳粛な使命を退けた。あるものは、深く感動して、警告の言葉に聞き従おうとした。しかし、あざけり笑うものが多いために、ついに彼らと同調して、恵みの招待を拒み、やがてだれよりも大胆不敵にちよう笑するものになった。というのは、一度光を与えられながら、罪を示す神の霊に逆らった者ほど、無謀で、罪の深みに沈むものはないからである。

厳密な意味において、当時の人々は、全部偶像礼拝者であったのではない。神を礼拝すると公言する者が多くいた。彼らの偶像は、神を代表するものであって、人間はそれによって、神に関する明確な観念をいだくことができると彼らは主張した。この種の人々が、率先してノアの説教を拒否した。」（人類のあけぼの上巻 92, 93)

4. 今日のノア

- a. わたしたちが生きている時代を、聖書はどのようにあらかじめ述べていますか（テモテ第一 4:1; テモテ第二 3:1-5）。

「イエスは、重大な問いを発しておられる。『人の子が来るとき、地上に信仰が見られるであろうか』（ルカ 18:8)。すでに述べた通り、世界の状態は、ノアの時代のものであると主は言われた。終末が近づくにつれて、罪悪が増すことを予期すべきであるとパウロは警告している。……使徒は、「終りの時には、苦難の時代が来る」と言っている（テモテ第二 3:1)。そして、彼は、信仰を持っているふりをする人々の間にある驚くべき罪の数々をあげている。

洪水前の人々は、猶予の期間が終わろうとしていたとき、刺激的娯楽や祭りに熱中していた。勢力と権力をもった者は、人々の心を歓楽と快楽に夢中にさせておいて、最後の厳粛な警告にだれも心を動かすことがないようにしむけていた。われわれの時代にも、同様のことがくり返されているのを見ないであろうか。神のしもべたちが、万物の終末の接近の使命を伝えても、世は、娯楽と快楽の追求に心を奪われている。次々と心を刺激するものがあって、神に対する関心を失わせ、来たるべき破滅から人々を救う唯一の真理に、深い感銘を受けることを妨げている。」（人類のあけぼの上巻 103, 104)

- b. ノアの時代からわたしたちが注意をとめるべき警告は何ですか（ペテロ第二 3:3-10）。

「ノアの時代に、哲学者たちは、この世界が水によって滅ぼされることはあり得ないと言ったように、今日でもこの世界が火で滅ぼされることはあり得ない、また、それは自然の法則に反することであるということを示そうとする科学者たちがいる。……偉人や知者たちが、水による世界滅亡の不可能性について証明し、人々の恐怖がしずまり、万人がノアの預言を妄想だといい、彼を狂信家とみなした、そのときこそまさに神の時の到来であった。『大いなる淵の源は、ことごとく破れ、天の窓が開け』て（創世記 7:11)、あざける人々は、洪水にのまれた。人々は、彼らの誇った哲学も知恵もみな愚かなものであって、法則を制定されたおかたこそ、自然の法則より偉大であり、また、全能の神は、その目的を果たすための手段にこと欠かれないことを悟ったのであったが、そのときではもうおそすぎたのである。」（同上 104)

5. わたしたちの前にある現実

a. 多くの人々は今日どの現実を避けますか (テサロニケ第一 5:3)。

「哲学の論理が、神の審判の恐怖を追い払い、宗教家が長い平和と繁栄の時代の到来を指摘し、世が事業と快楽、植樹や建築、飲食や歓楽に心を奪われて神の警告を退け、神の使者たちをあざけているその時、突如として滅びが彼らをおそってくる。そして、それからのがれることは決してできない。」(人類のあけぼの上巻 104)

b. 魂を勝ち取ることは難問のように見えるとき、わたしたちはいつも何を心に留めているべきですか (ペテロ第一 3:18-22)。

「できるときには、いつでも神のみ言葉を提示しなさい。あらゆる水のほとりにまきなさい。あなたはすぐに自分の働きの結果を見ることはできないかもしれないが、失望してはならない。キリストがあなたに与えて下さった言葉を語りなさい。このお方の方針で働きなさい。このお方が地上で伝道の働きをしておられた時のように、どこへでも出ていきなさい。

世の贖い主の話を書く者は多かったが、従った者はわずかであった。ノアは洪水の前に 120 年間説教をしたが、この尊い恩恵期間を感謝したのはわずかであった。ノアとその家族を除いては、信徒と共に数えられ、箱舟の中に入った人はあげられていない。地のすべての住民のうち、わずか 8 人の魂だけがメッセージを受け入れたのであったが、そのメッセージが世を罪に定めた。信じることができるよう光が与えられた。光を拒んだことが彼らの破滅となった。世に対するわたしたちのメッセージはそれを受け入れるすべての人にとっては命から命へ至る香りとなり、それを拒む者にとっては有罪宣告の香りとなる。」(教会への証 7 巻 36)

個人的な復習問題

1. 魂を勝ち取ることに於いてエノクの成功の秘訣をあげなさい。
2. ノアの時代に言及したキリストの言葉を、わたしたちはどのように理解すべきですか。
3. ノアの説教の結果に、どのような時代を越えた原則が見られますか。
4. 今日広まっているどのような態度が、使徒たちによってあらかじめ述べられていましたか。
5. わたしたちの前にある時の短さを考えるとき、時の要求は何ですか。

アブラハムの信仰

「わたしたちの父祖アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげた時、行いによって義とされたのではなかったか。あなたが知っているとおり、彼においては、信仰が行いと共に働き、その行いによって信仰が全うされ」（ヤコブ 2:21, 22）

「〔主に〕 近く引き寄せられ〔ることによって〕、わたしたちは主のみ手にあつて報われるこれらのわざをなすための恵みを受けるのである。」（レビュー・アンド・ヘアルド 1895 年 1 月 29 日）

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 150-162

日曜日

10 月 21 日

1. 信仰によって分離される

- a. アブラハムへの神の召しから、わたしたちは何を学ぶべきですか（創世記 12:1-8; 15:1-7）。

「自分自身の父親が真の礼拝と偽りの礼拝の間で揺れ動き、その真理の知識には偽りの理論や偶像礼拝の習慣が混じっていたにもかかわらず、アブラハムはこの心酔がなく守られていた。」（パイプル・コメント [E. G. ホワイトメント] 1 巻 1092）

「アブラハムのように、今日も、なお、多くの人々が試みを受ける。彼らは、天から直接語られる神の声を聞かないが、神は、神のみことばの教訓と摂理のできごとによって彼らを召される。富と栄誉を約束する職業を捨てて、気の合った有益な仲間を離れ、親族と別れ、克己と困難と犠牲だけを要求するように思われる道に進むように要求されるであろう。神は、彼らに仕事をさせようとしておられる。しかし、安易な生活、友人や親族の感化は、その働きを完成するのに必要な品性の発達を妨げるのである。神は、彼らを人間的感化や援助から遠ざけて彼らに神の助けの必要を感じさせ、ただ神にだけ頼るように導いて、彼らにご自身を啓示しようとなさるのである。心に秘めた計画や親しい友との交わりを捨てて、神の摂理の召しに応じる者はだれであろうか。キリストのための損は利益であると考えて、新しい任務を引き受け、働きが始められていない地に行き、堅い決心のもとに喜んで神のみわざに従事するのはだれであろうか。」（人類のあけぼの上巻 124）

2. 祈りに満ちた生涯の模範

- a. アブラハムの神との関係は何を明らかにしていますか (創世記 12:7, 8; 13:4, 18)。

『神の友』アブラハムは、尊い模範を残した。彼の一生は、祈りの生涯であった。彼は、天幕を張ると必ずそのそばに祭壇を築いて、朝夕の犠牲をささげるときに天幕内のすべての者を集めた。彼の天幕が移動していくと、祭壇はそこに残った。」(人類のあけぼの上巻 126)

- b. 神がアブラハムについて言われたことによって、わたしたちはどのように励まされることが出来ますか (創世記 17:1-5; 18:17, 18)。

「親自身が、全心をこめて、主の律法に従って歩かないかぎり、子供たちに服従を命じることはできない。この点に改革が必要で、深く、広い改革が行われなければならない。親に改革が必要であり、牧師に改革が必要である。彼らの家庭に、神が必要である。もし彼らに変化を希望するならば、彼らの家庭に神の言葉を入れ、その勧告に従わなければならない。それは、彼らに語る神の声であり、それに絶対に服従すべきであることを、彼らは子供たちに教えなければならない。親は忍耐深く子供たちを教え、神を喜ばせるためには、どのように生きるべきかを、やさしく、たゆまず教えなければならない。こうした家庭の子供たちは、無神論の詭弁に立ちむかう準備がある。彼らは、聖書を彼らの信仰の基礎として受け入れた。彼らは、懐疑論の潮流に流されない土台を持っている。

あまりにも多くの家庭で、祈りがなおざりにされている。親たちは、朝夕の礼拝をする時間がないと考えている。彼らは、植物を繁茂させる輝く日光や雨、聖天使の保護などの豊かな恵みに対して、神に感謝する時間を少しもさくことをしない。彼らは、神の助けと導きを求め、家庭にイエスがおとどまりになるように、祈りをささげる時間を持たない。……

昔の父祖たちのように、神を愛すると告白するものは、どこに天幕を張っても、そこに主の祭壇を築かなければならない。すべての家が祈りの家でなければならない時があるとすれば、それは今である。父親も、母親も、自分たちと子供たちのために、けんそんに願いをなし、心を神にむけなければならない。父親は、家庭の祭司として、朝夕の犠牲を神の祭壇にささげ、妻と子供たちは、祈りと賛美に加わろう。イエスは、そうした家庭に喜んでとどまられる。」(同上 147, 148)

3. 自分にならうよう家族に命じる

- a. 今日家族の頭は、神がアブラハムに置かれた信頼から何を学ぶ必要がありますか(創世記 18:19)。

「多くの親たちは、盲目的で、利己的な感傷とまちがった愛情に陥り、子供たちが彼らのまだ十分に成長していない判断力と訓練されていない欲望とをほしきままにするのを放任している。これは、青年たちにとって、全く残酷なことであり、世界にとって、大きな罪である。家庭と社会の無秩序の原因は、親の怠慢にある。それは神の要求に従うかわりに、青年たちの好むままを行なう欲求をますます強固にする。こうして、彼らは神のみこころを行なうことをきらって成長し、その非宗教的で不従順な性質を彼らの子孫に伝える。親は、アブラハムのように、家族に服従を命じる必要がある。神の権威に服従する第一歩として、親の権威に服従することを教えて実行させよう。

神の律法が、宗教的指導者にさえ軽視されることは、大きな害悪を生んでいる。……信仰は持っていても神の律法に従っていない親は、主の道を守るように家族に命じない。神の律法が、生活の規準にされていない。子供たちが、それぞれの家庭を築くときに、彼ら自身が教えられなかったことを子供たちに教える義務は感じない。今日、不信仰な家庭がこんなに多いのはそのためである。墮落がこんなに深く、広く及んでいるのもこのためである。(人類のあけぼの上巻 146, 147)

「母親はどんな場合でも、親につけこむようなことを、子供に許してはならない。この権威を持ち続けるためには、手荒な手段を使う必要はない。しっかりした、むらのないやり方と、子供にあなたの愛を確信させるようなやさしさがあれば、目的を達成することができる。」(家庭の教育 72)

「親が直接命令しなければならないとき、それに従わない場合の罰は、自然の法則のように一定不変でなければならない。このように堅実で断固とした規則のもとに育てられている子供たちは、あるものが禁じられたり拒否されたりするときは、いくらせがんでも弄(ろう)してもそれを手に入れることは出来ないと知っている。そのためすぐに言いつけに従い、しかもそうするほうがずっと幸福なのである。優柔不断で甘やかし過ぎる親の子供たちは、甘えたり泣いたりふくれたりして欲しいものを手に入れようとか、言うことを聞かないで、しかも罰をまぬがれようとか、そんなことばかり考えるようになってしまう。こういう子供たちは、欲求と期待と不安とが入りまじった状態におかれ、そのために、落ち着かず、イライラし、反抗的になってしまう。子供たちをそのようにしてしまう親たちに対して、神は、子供の幸福を台なしにするその責任を問われる。」(同上 300, 301)

4. 悪を行う人々のためにとりなす

- a. どの歴史が、他の人々に対するアブラハムの大きな愛と憐れみを表していますか。また彼の態度は、どのようにわたしたちのための教訓となるべきですか(創世記 18:20-33)。

「信仰の人〔アブラハム〕は、ソドムの住民のためにとりなした。……

自信や自己の義を誇る心はなかった。彼は、自分の服従とか神のみこころを行なうための犠牲とかを理由にして、恵みを求めたのではない。彼は、自分自身罪人であるが、罪人のために哀訴した。神に近づく人々は、すべてこのような精神をもたなければならない。アブラハムは、愛する父親に訴える子供のような確信をあらわした。彼は、天の使者のそばに近づいて熱心に訴えた。ロトは、ソドムの住民にはなかったけれども、彼は、住民の罪に参加していなかった。アブラハムは、人口の多いこの町に、真の神の礼拝者がほかにもあるにちがいないと思った。……アブラハムは一度だけでなく何度も願った。願いが聞かれるにつれて大胆になり、もし、十人の義人がソドムにいたならば、町は救われるという確証をついに得た。

アブラハムは、滅亡にひんした魂への愛に動かされて祈った。彼は、腐敗したソドムの町の罪はきらったが、罪人が救われることを願った。アブラハムがソドムのために抱いた深い関心は、われわれが悔い改めていない人々に対して感じなければならない切実な思いを示している。われわれは、罪を憎まなければならないが、罪人には、あわれみと愛を持たなければならない。われわれの回りには、ソドムにのぞんだのと同じように、希望なく恐ろしい破滅に陥っている魂がある。毎日、だれかの恵みの期間が閉じている。毎時間、だれかが恵みのとどかないところへ移っていく。それなのに、恐ろしい運命をさけるように罪人に訴え、警告する声はどこにあるのだろうか。罪人を死から引き返すためにどこに救いの手がさしのべられているのだろうか。けんそんに、しかも忍耐強い信仰をもって、罪人のためにとりなす人はどこにいるのだろうか。」(人類のあけぼの上巻 142, 143)

- b. アブラハムの最大のテストからわたしたちは何を学ぶべきですか(創世記 22:1, 2, 7-18)。

「アブラハムの模範においてわたしたちは自分たちの持っているもので神にお捧げするのに貴重すぎるものはないことを教えられる。……

自分の息子を捧げることによって神に従うことほど、精神的な苦悩や魂の苦悶を生じさせる試練や苦難やテストをアブラハムにもたらすことはできなかった。」(サイン・オブ・タイムズ 1875 年 4 月 1 日)

5. アブラハムの遺産

- a. アブラハムの神との関係において表されたどの態度が、特に今日わたしたちが心に留めるべき重要なものですか（ヘブル 11:8-10; コロサイ 3:1-3）。

「この哀れな暗い世に引きつけられるのではなく、神に向かって上へ、栄光へ、また天へと引きつけられるべきである。〔わたしたち〕は、ここでの事業の心配や困惑が思いを奪うのではなく、アブラハムの事業を熟考すべきである。わたしたちは不死の嗣業の相続者であり、愛情は地から引き離されて、天の事柄に留まるべきである。」（ライフ・スケッチ（1888）329）

- b. アブラハムの信仰の本質を説明しなさい（ヤコブ 2:18-24; ヨハネ 第一 5:3）。

「わたしたちは今日、周囲におしよせ、神の愛の芳しい日光を締め出し、霊的な成長を妨げている闇を明るくするために、アブラハムの信仰を必要としている。わたしたちの信仰はよい行いの実り豊かなものとなるべきである。なぜなら、行いのない信仰は死んだものだからである。」（信仰によってわたしは生きる 115）

- c. アブラハムの経験を研究することは、なぜ今日わたしたちにとって重要なのですか（ローマ 4:1-3, 13; ガラテヤ 3:8, 9, 29）。

「神に正しく仕えるためには、神のみたまによって生れなければならない。みたまは心をきよめ、思いを新たにし、神を知り愛する新しい能力をわれわれに与える。それは神のすべてのご要求によることで従う心をわれわれに与える。これが真の礼拝である。」（各時代の希望上巻 225）

個人的な復習問題

1. 神に従うとき、なぜ親しい仲間たちからの分離がしばしば必要とされているのですか。
2. 成功するクリスチャン家族の生活にとって一つ基本的な必須条件を挙げなさい。
3. 今日アブラハムの模範によって、親はどのように強められますか。
4. 今日悪人たちのためにわたしたちが感じるべき心の切望感を述べなさい。
5. 忠実な人々にとって、アブラハムの時を越えた模範の重要性を要約しなさい。

第一安息日献金

ミッションフィールドのための出版物

21 世紀に、インターネットや電子書籍や他のメディアが福音を伝えるための近代的な手段である一方、なお他のメディアに代わることのできない特有で用途の広い提示方法があります。印刷された紙は、電気がなくても、福音を地の最も奥深いところまで届ける最も効果的な手段の一つです。この方法によって、良き知らせは、かつての共産圏、無神論、またイスラム教国家にまで



入っており、マンツーマン方式で分かち合うことができます。主の僕は次のように言っています、「聖書の真理を掲載した出版物を秋の木の葉のようにまきなさい」（天国で 323）。「わたしたちの出版物は至るところへ行くべきである。それらが多くの言語で発行されるようにしなさい。第三天使のメッセージはこのメディアを通して、また生ける教師を通して伝えられるべきである。この時代のための真理を信じるあなたは、目覚めなさい。いま真理を理解する人がそれを宣布するのを助けるためにできる限りの手段を用いることがあなたの義務である。」（教会への証 9 卷 62）

「告げ示し（出版し）、ほめたたえて言え、主はその民イスラエルの残りの者を救われる」（エレミヤ 31:7）。神の民、イスラエルの残りの民は、救いの良き知らせを出版すべきです。わたしたちには多くの国々で伝道のための聖書、書物、パンフレットが十分にありますが、なお世界中には同じ特権をもたない莫大な群衆がいます。世界中の様々な地域への文書配布を支援するのは、わたしたちの義務であり荣誉です。聖書は多くの言語や方言に翻訳されてきましたが、重要な書物、たとえばキリストへの道、各時代の大争闘はまだ何百万もの人が手に入れることができません。今日現代の真理を探っている人々に安息日学校教科をわけてはどうでしょうか。

改革のメッセージがまだ入っていない太平洋の島々やアフリカの諸国のことを考えてみてください。伝道の書 11:1 にある「あなたのパンを水の上に投げよ、多くの日の後、あなたはそれを得るからである」の約束を覚えていきましょう。わたしたちは遅すぎることになる前に神のみ言葉を広めなければなりません。わたしたちは直ちに結果を見ることはできないかもしれませんが、しかし、後の雨が満ちみちてもたらされる大収穫を目撃できるのはさほど遠い先ではないでしょう。この地上ではなく、天に宝を蓄える賢い管理者となろうではありませんか。

過去に参加して下さったすべてのいたるところの兄弟姉妹友人がたに非常に感謝しています。しかし、必要は今、かつてなかったほど大きくなっています。ですから、この働きにおいて惜しみなく捧げようではありませんか！

世界総会出版部

神ご自身の心になう人

「主よ、あなたの道をわたしに教えてください。わたしはあなたの真理に歩みます。心をひとつにしてみ名を恐れさせてください。」(詩篇 86:11)

「神がダビデをご自身の心になう人だと呼ばれたのは、彼が純潔に神の勧告のうちに歩んだ時のことであった。」(霊的賜物 4-a 巻 87)

推奨文献：人類のあけぼの下巻 396-406, 414-430

日曜日

10月28日

1. 天は心を見る

- a. 神はなぜイスラエルの王座から下ろしてサウルを取り替えられたのですか(サムエル記上 13:13, 14)。

「サウルはイスラエルの心になうものであったが、ダビデは神ご自身の心になう者である。」(バイブル・コメント [E. G. ホワイトメント] 2 巻 1015)

- b. エッサイの長子が王として油を注がれるために合格しなかったのはなぜですか。そしてわたしたちはこのことから何を学ぶべきですか(サムエル記上 16:1, 6-13)。

「エッサイの息子たちがサムエルの前を通り過るときに、彼は背が高く、威厳のある風貌をしたエリアブを選びたいと思った。しかし神の御使がこの重要な決定にあたり彼を導くために横にいて、外見から判断してはいけないと教えた。エリアブは主を畏れなかった。彼の心は神に対して正しくなかった。彼は誇り高く、厳しい統治者になるのであった。エッサイの息子のうちで、羊の世話というつましい職業をしていた一番若いダビデの他はだれも見つからなかった。彼は羊飼いというつましい仕事を非常に忠実に果たしてきたので、神は彼をご自分の民の将として選ばれた。時節が来れば、彼は羊飼いのつえを笏に替えるのであった。」(預言の霊 1 巻 367, 368)

「内面の価値と心の卓越性が、万軍の主を受け入れられるか否かを決定するのである。われわれは、自己、または、他人を評価するに当たって、この事実を深く感じなければならない。」(人類のあけぼの下巻 311, 312)

2. 神の誉れを大切に守る

- a. 自慢げなガテの巨人の前にイスラエル人が震えていたとき、ダビデの主な懸念は何でしたか（サムエル記上 17:22-26）。
- b. なぜダビデは自分が巨人を打倒せるという確信があったのですか。そして、これはどのように自慢げな誇りや憶測とは違っていましたか（サムエル記上 17:32-37）。

「神のイスラエルをものとしなかったこの強力な兵士にあえて〔ダビデ〕を立ち向かわせたのは、誇りや自己満足の精神であったのだろうか。ダビデにはこの精神は少しもなかった。慎み深く出しゃばることなく、彼は自分自身の知恵や技能や力に頼ってこの宣言をしたのではなく、自分をししや熊の口から救い出して下さった神の力に信頼したのであった。……

ダビデの心は少しもおびえていなかった。なぜなら、彼は自分の信頼をだれに知っているかを知っていたからである。」（サインズ・オブ・タイムズ 1886年3月4日）

- c. なぜダビデはサウルの武具を用いることを断ったのですか（サムエル記上 17:38, 39）。わたしたちに神の最後の憐れみのメッセージが委ねられています、このことはわたしたちに何を教えますか（テモテ第二 2:25, 26）。

「重い十字架を伴う人気のない真理を提示する際に、説教者は一つ一つの言葉が神のお用いになるとおりであるよう注意すべきである。彼らの言葉は決して切りつけるものであってはならない。彼らは真理を魂への最も深い愛と彼らの救いのための真剣な願いをもって、へりくだりのうちに提示すべきである。そして、真理に切らせなさい。彼らは他の教派の牧師たちを無視したり、討論を引き起こそうとしたりすべきではない。彼らはゴリアテがイスラエル軍を挑発した時のような彼の立場に立つべきではない。イスラエルがゴリアテを挑発したのではなく、ゴリアテが自分の誇りのままに神とその民に対して自慢したのであった。無視したり、自慢したり、ののしったりすることは、真理の敵、すなわちゴリアテのようにふるまう者たちから来るに違いない。しかし神が破滅の運命にある世に対して最後の警告のメッセージを宣布するために遣わされた人々のうちに、この精神はわずかでも見られてはならない。……

〔ダビデ〕は王の武具を自分で試したことがなかったためにそれを脱いだ。彼はこれまで神を試し、このお方に信頼して特別な勝利を得ていた。サウルの武具は、彼が羊を飼う小さなダビデであるにすぎないにもかかわらず、兵士であるとの印象を与えることになるのであった。彼はサウルの武具に何の功績を与えるつもりもなかった。なぜなら、彼の信頼はイスラエルの主なる神に置かれていたからである。」（福音宣伝者 (1892) 188)

3. 明らかにされた優先事項

- a. ダビデの品性の高潔さを示す二つの例を挙げなさい（サムエル記上 26:2, 7-11; 歴代志上 11:15-19）。
- b. ダビデが王となったとき、彼の第一優先事項は何でしたか（歴代志上 13:1-3）。後に続いた悲劇の理由を説明しなさい（歴代志上 13:6-11）。

「突然、喜んでいた群衆は恐怖に襲われた。ダビデは、驚き、大いに恐れて、心の中で神の正義を疑った。彼は、神の臨在の象徴として箱を尊ぼうとしていたのである。それなのになぜこの恐ろしい罰が与えられて、喜ばしい光景が悲しみと嘆きの時とかわったのであろうか。ダビデは、箱を自分の身辺に置くのは安全でないと考えて、そのままその場に止めておくことにした。それは近くにあったガテ人オベデエドムの家に置かれた。

ウザの死は、明白な命令にそむいた罰であった。主は、モーセによって、箱を運ぶときの特別の指示を与えておられた。アロンの子孫の祭司以外は、それに触れることも、おおいをかけずに見ることさえできなかった。……

ダビデと彼の民とは、聖なる働きをするために集まり、心から喜んでそれに従事したのであった。しかし、それが主の指示に従って行なわれていなかったために、主はその奉仕を受け入れることがおできにならなかった。ペリシテ人は、神の律法を知らなかったから、箱をイスラエルに返すときに車に載せた。そして、主は、彼らの努力をお受け入れになった。しかし、イスラエル人は、彼らの手中に、これらすべてのことに関する神のみむねを明らかにしたものを持っていた。そして、これらの指示をなおざりにすることは、神のみ栄えを汚すことであった。ウザは僭越というさらに大きな罪を犯した。彼は神の律法を犯して、その神聖さを自覚しなくなり、告白しない罪をいだいたまま、神が禁じておられるにもかかわらず、神の臨在の象徴にあえて触れようとした。神は、部分的服従や神の戒めをあいまいに取り扱うことをお受け入れにならない。神は、ウザを罰することによって、神の要求に厳密な注意を払う重要性を、全イスラエルに印象づけようとした。こうして、ひとりの人間の死によって、人々が悔い改めるようになり、幾千の人々を罰する必要があるようにするのであった。」（人類のあけぼの下巻 400, 401）

4. 徹底的な改革

- a. ダビデが神の方法をもっと理解したいとの真剣な願いのうちに経験した心を探るような経験を述べなさい（歴代志上 13:12-14）。

「神の譴責は、ダビデに対して効果を現わした。彼は、これまでになかったほどに、神の律法の神聖さと厳密に服従する必要とを自覚した。……

彼は、三か月後にもう一度箱を移動させようと考えた。そして、今度は、主の指示に厳密に従おうと真剣に注意するのであった。」（人類のあけぼの下巻 401）

- b. 深い研究と祈りの後、ダビデはどのように契約の箱を移すかについて何を学びましたか（民数記 4:15; 7:9）。わたしたちは彼の敬神的な儀式の行列や彼の信仰が報われた方法から、何を学ぶべきですか（歴代志上 15:25, 26）。

「王は、王衣を脱いで、祭司が着るような亜麻布のエポデを身につけた。この行為によって、彼は、祭司の勤めをしようと思ったのではなかった。エポデは、時には、祭司以外の人も着ていた。しかし、彼は、この聖なる式典において、神の前に彼の国民と平等の立場をとりたかったのである。その日、あがめられるのは、エホバであった。ただこのお方だけが尊崇の対象とならなければならなかった。……

ダビデが神の前で、敬虔な喜びに満ちて踊ったことを引用して、快樂愛好者たちは今流行している社交ダンスを正当化しようとするが、これは、そうした議論の根拠にはならない。……箱を移動するに当たって、喜びにあふれて神をたたえた音楽と踊りは、今日のダンスという娯楽とは、少しも似通ったところがなかったのである。一つは、神をおぼえて神の神聖な名を高めるものであった。他のものは、人々に神を忘れさせ、神を汚させるサタンの手段である。」（同上 402）

「真のクリスチャンは、神の祝福を求めることのできない娯楽の場所へ出入りしたり、遊びに加わったりしたいとは思わない。こういうクリスチャンは、劇場や玉突き場やボーリング場に姿をみせない。……こういう遊びをしたいという人々に対する答は、ナザレのイエスの名において私たちはそうした遊びにふけることができないということである。劇場やダンスホールで過ごした時間の上に、神の祝福はくだらない。」（青年への使命 399, 400）

5. 心の純潔さを培う

- a. ダビデの罪を見て(サムエル記下 11:1-27)、彼を神の心にかなう人物として考えるとき、わたしたちは何を理解しなければなりませんか(列王記上 15:5)。

「ダビデは神から離れ、彼の徳のある品性に自分の犯罪によってしみをつけたとき、もはや彼は神の心にかなう人物ではなかった。……義人が自分たちの義に背を向けて悪をなすとき、彼らの過去の義は、正しく聖なる神の怒りから彼らを救うことではない。」(霊的賜物 4-a 巻 87)

- b. 神の大いなる憐れみを通して、どのような思想がダビデを天の恵みと純潔へと回復する助けとなりましたか(詩篇 51:1-4, 10, 17; 86:11; 119:113)。

「ダビデが罪を犯した後にはささげた祈りは、罪に対する悲しみをよくあらわしている。かれはまじめに、心の底から悔い改めたのである。自分の罪を弁解しようとするのでもなければ、恐ろしい刑罰をのがれようという気持から祈ったのでもない。ダビデは自分の罪の恐ろしさ魂の汚れを認めて、自分の罪を憎んだのである。かれが祈ったのは、罪のゆるしばかりでなく心がきよめられることであった。また聖潔の喜びを切望し、もう一度神とやわらぎ神との交わりにはいりたいと願ったのである。」(キリストへの道 25)

「ダビデはしばしば神にあつて勝利した。それでいてなお、彼は自分自身の無価値さと罪深さを大いに考えた。彼の良心は眠ってもいなければ、死んでもいなかった。彼は、『わたしの罪はいつもわたしの前にあります』と叫んでいる(詩篇 51:3)。彼は罪は自分と関係のないことだとか、自分に関わるはずがないとうぬぼれることはなかった。彼は自分の心のうちに欺きの深さを見たとき、自らを深く厭(いと)い、神にそのみ力によって、自分を故意の罪から守り、隠れたとがからきよめて下さるよう祈った。」(ユース・インストラクター 1894 年 7 月 5 日)

個人的な復習問題

1. なぜ神はご自分の民を導くために、エリアブよりもダビデを選ばれたのですか。
2. ゴリアテに対する闘いにおいて、ダビデの優先事項を表したのは何ですか。
3. なぜ、ウザは撃たれたのですか。
4. ダビデが主の前に「おどった」ことについて、わたしたちは何を悟るべきですか。
5. 何がダビデの礼拝に対する態度を、非常に模範的なものとしたのですか。

礼拝における音楽

「主にあがなわれた者は、歌うたいつつ、シオンに帰ってきて、そのこうべに、とこしえの喜びをいただき、彼らは喜びと楽しみとを得、悲しみと嘆きとは逃げ去る。」(イザヤ 51:11)

「音楽は、天の宮廷の神の礼拝の一部になっている。であるから、われわれは、できるかぎり、天の合唱隊と調和した声で、賛美の歌をうたうように努力しなければならない。」(人類のあけぼの下巻 257)

推奨文献： 伝道 496-512

日曜日

11月4日

1. 喜ばしい声を上げる

a. 神を礼拝するのに受け入れられる方法を一つ挙げなさい(詩篇 95:1, 2; 100:1, 2)。

「音楽は聖なる目的のために用いられ、清く、気高く、高尚なことに人の思想を高め、魂のうちに、神への献身と感謝の念を起こさせた。……

歌は、祈りが礼拝の行為であるのと同様に、宗教的礼拝の一部である。」(人類のあけぼの下巻 256, 257)

b. 何を自覚することによって、神に礼拝する際に用いるべき音楽の種類に関して見張りをおくよう促されるべきですか(エゼキエル 28:13, 14, 17)。

「サタンは天の聖化隊を指揮していた。彼が初めの音を出すと、すべての御使の万軍が彼に和するのであった。」(サインズ・オブ・タイムズ 1879 年 1 月 16 日)

「神に栄光を帰すために用いるかわりに、自己を高めるためにこの賜物を用いる者がなんと多いことであろう。不注意な者は、音楽を愛好する心から、世俗愛好者と一緒になって、神が神の子らに行くことを禁じられた快樂の集会に行くようになる。こうして、正しく用いられるならば、大きな祝福であるものが、義務と永遠のことがらを瞑想することから人の心をそらすサタンの最も有効な道具となる。」(人類のあけぼの下巻 257)

2. 歌う理由

- a. わたしたちは神が聖なる歌によって讃美されたことを、最初にいつ聞きますか (ヨブ 38:4, 7)。

「神のほほえみのもとに、美しく汚れなくひろがっている新しい地に、『明けの星は共に歌い、神の子たちはみな 喜び呼ばわった』(ヨブ記 38:7) とある。」(教育 187)

- b. 他にどのような注目すべき出来事が、神の使から讃美の歌を引き起こしましたか (ルカ 2:13, 14)。

「この世に生まれた者のうちだれも、最も恵まれた神の子たちでさえ、ベツレヘムで生まれた赤子が受けたほどの喜びの表現に迎えられた者はいない。神の御使たちは、ベツレヘムの丘や平野にわたってこのお方の讃美を歌った『いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように』(ルカ 2:14)。ああ、今日人類家族が、この歌を認めることができればよいのだが!そのときになされた宣言、そのときに奏でられた音、そのときに始まった旋律は、増大して、終わりの時にまで至る。そして地の果てまで鳴り響くのである。それは神への栄光であり、地の上の平和であり、人々への良きみ旨である。義の太陽がその翼にいいやしをもって上るとき、そのときにベツレヘムの丘で始まった歌は、大水の音のような大群衆の声によって『ハレルヤ、全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる』とこだまする(黙示録 19:6)。」(レビュー・アンド・ハラルド 1906年4月5日)

- c. イエスは何が天における喜びの理由だと言われましたか。またこの喜びの源は、わたしたちにどのような影響をもたらすべきですか (ルカ 15:6, 7)。

「わたしたちは失われた者が回復したときに羊飼いが表した大きな喜びを心に留めなければならない。このお方は『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけたから』と自分の隣人に呼びかけておられる(ルカ 15:6)。そして全天は喜びの旋律を鳴り響かせる。御父自ら歌って救い出された者たちを喜ばれる。この譬では、なんという聖なる喜びの頂点が表現されていることであろう!その喜びにあずかるのが、あなたの特権である。」(教会への証 6巻125)

「救いの科学は、すべての説教の主旨、すべての歌の主題であるべきである。」(伝道 502)

3. ダビデからの教訓

- a. ダビデはどのように広い範囲で宮での礼拝に組織だった讃美を用いましたか。またわたしたちは彼の模範から何を学ぶことができますか（歴代志上 15:22; 25:7）。

「年老いた王〔ダビデ〕とその息子〔ソロモン〕、また彼らの顧問たちは、すべてが規則正しく、行儀よく、忠実に、かつ迅速になされることが重要不可欠だと考えた。できるかぎり、彼らはエジプトから救出後すぐにイスラエルに与えられた組織の体制に従った。レビ人たちは宮の奉仕に関連した働きに任命され、そこには歌や楽器の務め、また宝物の管理も含まれていた。」（ビュー・アズ・ヘルド 1905 年 10 月 12 日）

「歌うことは神の礼拝の一部であるが、しばしば指揮されるような不器用なやり方では、真理の名声とも、神への誉れともならない。このことにおいて、主の働きのどの部分についてもそうであるように、手順と秩序があるべきである。会衆を導くことのできる声をもった最高の歌い手たちのグループを組織し、歌いたいすべての人が彼らに和するようにしなさい。歌う人は、歌がハーモニーになるように努力すべきである。彼らは練習のためにいくらかの時間を捧げ、このタラントが神の栄光のために用いられるようにすべきである。」（同上 1883 年 7 月 24 日）

- b. ダビデは祭司や宮の歌い手たちに神の礼拝における彼らの歌に何が伴うように命じましたか（歴代志上 16:42; 25:1, 6）。
- c. 祭司や歌い手たちのためにダビデが選んだ楽器は、どのように受け入れられる礼拝を促進しましたか（歴代志下 5:12, 13）。

「音楽には、美しさ、情感、また力があるべきである。讃美と献身の歌のうちに声をあげなさい。もし実行できるのであれば、楽器演奏をもってあなたを助けるように呼びかけ、栄光に満ちたハーモニーが神の許へ上り、受け入れられる捧げ物としなさい。しかし、しばしば歌い手たちを律して秩序正しく歌えるように保つ方が、祈りや勧めの習慣を向上させるよりも困難である。多くの人々は自分自身のやり方で物事を行いたい。彼らは相談を嫌い、指導のもとにあることに我慢ができない。」（教会への証 4 巻 71）

4. 主に向かってさんびの歌をうたう

a. 歌の賜物を用いるときのわたしたちの義務を述べなさい (コロサイ 3:16)。

「歌うことを礼拝の一部とする人は、その場にふさわしい、葬儀の旋律ではなく、快活でありながら、厳粛なメロディの讃美を選ぶべきである。」(サインズ・オブ・タイムズ 1882年6月22日)

b. 神を礼拝する際に、わたしたちの旋律は、何から歌われ、また何と共に歌われるべきですか (エペソ 5:19; コリント第一 14:15; 詩篇 47:7)。

「多くの人々は集会で美しい歌、すなわち彼らが何をなし、何をなしたいかについての歌をうたっている。しかし、ある人々はこれらのことをしない。彼らは霊とまた理解とをもって歌わない。」(レビュー・アンド・ハラルド 1892年9月27日)

「音楽は、その手段によって、心が聖化され、やわらげられ、聖なるものとされるときにのみ、神に受け入れられる。」(伝道 512)

「演奏している人々が献身しておらず、心のうちで主に向かってさんびの歌をうたっていないときに楽器演奏を見せることほど、神の御目に不快なものはない。」(レビュー・アンド・ハラルド 1899年11月14日)

c. 礼拝にドラムを用いることに関して、特に肝に銘じるべき勧告は何ですか (ローマ 12:1, 2)。

「あなたがインディアナで起こったこととして述べたことが、恩恵期間の閉じる直前に起こることを、主はわたしに示された。あらゆる無作法なことが行動に表されるであろう。ドラムや音楽と共に叫んだり、踊ったりするであろう。分別ある者たちの感覚はあまりにも混乱させられて、正しい判断をすることをあてにできなくなる。そしてこれが聖霊の働きと呼ばれるのである。

聖霊は決してこのような方法、すなわちこのような騒音の混乱のうちに自らを表されることはない。これは純潔で、まじめで、高め、高尚にし、聖化させるこの時代の真理の効果をまったくなくそうとするサタンの巧妙なやり方を覆い隠すための彼の発明である。……

このような種類の礼拝を奨励することがあつてはならない。……

過去に起こったことは、将来も起こる。サタンは音楽を指揮する方法によって、それをわなとする。」(セレクトド・メッセージ 2巻 36-38)

5. 礼拝のための音楽と闘い

- a. 音楽は偽りの礼拝を奨励するために、過去においてどのような役割を果たしましたか。またどのように今日同じ目的のために用いられていますか（ダニエル 3:7; 黙示録 13:8）。

「音楽は多くの安息日遵守を公言するクリスチャンの礼拝する偶像である。サタンは青年たちの思いへ到達するための水路として音楽を用いることができるなら、それに対して何の異論もない。何であつても思いを神からそらし、神の礼拝に捧げられるべき時間を用いるならば、彼の目的にかなうのである。彼は大多数をうれしがらせるようなのぼせ上がりのうちにとらえ、その力によって麻痺させておくために、最も強力な感化力を及ぼす手段を通して働く。良いほうに用いられれば、音楽は祝福である。しかし、それはしばしば魂をわなにかけるためのサタンの最も魅力的な手段の一つである。乱用されるとき、それは献身していない人を誇り、虚無、愚かさへと導く。献身と礼拝にとって代わることが許されるとき、それは恐るべきのろいである。若い人たちは歌うために集会する。そしてクリスチャンだと公言していながら、しばしばその軽々しい会話と音楽の選択によって、神と自分たちの信仰を辱める。聖なる音楽は、彼らの嗜好に合わない。わたしは注意されずにやり過ぎされてきた神のみ言葉の率直な教えに導かれた。裁きの時にこれらのすべての靈感の言葉は、それらに注意を払って来なかった人々に有罪を宣告するのである。」（教会への証 1 巻 506）

- b. 最後の戦いにおいて勝利した人々は、神への自分たちの讃美をどのように表現しますか（黙示録 14:1-5; 15:2-4）。

「十四万四千のほかは、だれもその〔救いの〕歌を学ぶことができない。なぜなら、それは彼らの体験一他どの群れもしたことのない体験一の歌だからである。」（各時代の大争闘下巻 430）

個人的な復習問題

1. 音楽の最も重要な目的は何ですか。
2. 終わりの時までどの調べが歌われますか。
3. わたしたちは音楽をもって神を礼拝する方法をどのように向上させることができますか。
4. わたしたちの音楽が神に受け入れられるために何に到達しなければなりませんか。
5. サタンは受け入れられる礼拝に対する最後の戦いにて音楽をどのように用いますか。

へりくだりをまとう

「同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。また、みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。」（ペテロ第一 5:5）

「天の大君は、みずから幼な子のへりくだりをまとわれた。これがキリストのご品性である。」（教会への証 5 巻 422）

推奨文献： 国と指導者上巻 113-122;
初代文集 127-130

日曜日

11月11日

1. エリヤの使命

a. 預言者エリヤの生涯の目的を要約しているものは何ですか（列王記上 18:30, 36）。

「神はご自分の誉れが人々の前で最上に高められ、ご自分の勧告が民の目の前で確認されるように望まれた。カルメル山上の預言者エリヤの証言は、完全に神と地における神の働きのために立った人の模範である。預言者は主をその御名、すなわちエホバなる神と呼んだが、これは神ご自身がご自分のへりくだりと同情を示すために与えて下さったものである。エリヤはこのお方をアブラハム、イサク、ヤコブの神と呼んでいる。彼は神がご自分の背信の民の心のうちに、主のへりくだりの思い出を起こし、彼らにこのお方の豊かな無償の恵みを確証して下さることを願ってそうしたのであった。エリヤは『イスラエルでは、あなたが神であること……を、今日知らせてください』と祈った。神の誉れが最上に高められるのであった。しかし、預言者はさらに自分の使命もまた確認されることを求めた。……

エリヤの全生涯は改革の働きに捧げられた。彼は荒野において、罪を譴責し、道徳的な悪の潮を押し返すための呼ばれる声であった。そして彼が罪の譴責者として民に臨んでいる一方、彼のメッセージは罪に病み癒されることを望むすべての人のためにゴレアデの乳香を差し出した。彼の神の栄光のための熱心とイスラエルの家を愛する深い愛は、今日地における神の働きの代表者として立つすべての人を教えるために教訓を示している。」（ローマ・リンダ・メッセージ 572）

2. カルメル山における対照

- a. カルメル山におけるエリヤの祈りを、バアルに従う者によって捧げられた祈りと対照して述べなさい（列王記上 18:37-39; 26-29）。

「エリヤは主の怒りを招いた長い間の背信を人々に思い起こさせ、イスラエルの国からのろいを取り除かれるように、心を低くして彼らの先祖の神に立ち返るように呼びかける。そして、彼は目に見えない神の前にうやうやしく身をかがめ、手を天にあげて簡単な祈りを捧げるのである。バアルの預言者たちは、朝早くから午後遅くまで大声で叫び、あわを吹いて踊った。しかしエリヤが祈ったときには、カルメル山上に無意味な叫び声は響かなかった。彼は、主がその場の目撃者としてそこにおられて、彼の訴えを聞いておられるということを自覚しているかのように祈るのである。バアルの預言者たちは狂気じみて、つじつまの合わないことを祈った。エリヤはイスラエルの人々が神に立ち返ることと、神がバアルよりも優れた神であることを示してくださいと、簡単に熱をこめて祈るのである。」（国と指導者上巻 120）

- b. エリヤの祈りにすぐに答えがもたらされた—しかし雨ではなかった—が、このことは信仰と行いについて何をわたしたちに教えますか（列王記上 18:40-45）。

「僕はエリヤが祈っている間見張っていた。六回、彼は見張りから戻って来て、雲も雨のしるしも何もありませんと言った。しかし、預言者は失望のうちにあきらめなかった。彼は神に誉れを帰さなかったことがあるかどうかを調べるために自分の生涯を省みつけ、自分の罪を告白し、こうして自分の祈りが答えられるしるしを見守りつつ、神のみ前に自分の魂を悩ませ続けた。彼が自分の心を探っている間、ますます自分は自分自身の評価においても、神の御目から見ても減じていくように思われた。彼にとって自分は無であり、神はすべてであるように思われた。そして彼が自分の唯一の力と義として救い主にすがりながら、自己を放棄する時点まで来たとき、答えがもたらされた。……

世の歴史において、わたしたちの生きている時代ほど厳粛な時はなかった。……わたしたちの存在そのもの、わたしたちのしていること、何がわたしたちの将来の行動方針となるかは、みな明らかにされていない時の質問であり、わたしたちはぼんやりと無関心に無頓着ではいられない。わたしたちは各々、『わたしにとって永遠はどうか』と問うようになるべきである。』（レビエ・アンド・ヘルト 1891 年 5 月 26 日）

3. 危機にさらされているクリスチャンの上品さ

- a. 今日キリストは、自称教会をどのように述べておられますか（イザヤ 4:1）。この預言を紹介している章の中で、どのような光景が与えられていますか。また今日のような霊的な闘いが危機にさらされていますか（イザヤ 3:7-9, 16, 22-25; マタイ 5:27-29）。

「衣服の愛着が道徳を危険にさらし、女性を上品さと節度に特徴づけられたクリスチャン淑女と反対のものにしている。目立つ贅沢な衣服はあまりにもしばしば着る人の心に欲を促進し、見る人の心に低俗な情欲を目覚めさせる。神は品性の破滅に、しばしば衣服における誇りと虚栄にふけることが先立つことをご覧になる。」（健康への勧告 602）

「世は狂いたって見せびらかしと流行と娯楽を追っている。放蕩は着実に恐るべきほど増していつている。なぜクリスチャンは自分の高い告白に忠実であろうとしないのであろうか！

キリストはご自分に従うと公言する人々を恥じておられる。どの点においてわたしたちはこのお方に似たところを帯びているのであろうか。どの点においてわたしたちの衣服は聖書の要求に調和しているのであろうか。わたしは民の罪がわたしに及ぶことを望まない。それゆえに確かなラッパの音を響かせる。何年もの間、わたしはこの主題に関して、出版物でも演壇でも、率直で断固とした証を担ってきた。わたしは神の勧告全体を宣言することを避けてはこなかった。わたしはすべての人の血に対して無罪でなければならない。世俗と誇りがほとんどすべてに行き渡っているという事実が、一人のクリスチャンにとって他の人々と同じようにするという言い訳にはならない。神は『あなたは多数に従って悪をおこなってはならない』と言われた（出エジプト記 23:2）。

流行は知性を低下させ、わたしたちの民の霊性を食いつくしている。流行に従うことは、わたしたちのセブンスデーアドベンチスト教会に行き渡り、わたしたちの民を神から引き離すために他のどの力よりも多くをなしている。わたしはわたしたちの教会の規則が非常に不十分であることを示されてきた。衣服におけるあらゆる誇りの現れは、神のみ言葉の中で禁じられており、教会が除名するための十分な理由となるべきである。もし警告や訴えや嘆願を目の前にしても、なお強情な意志に従い続け、継続するならばそれは心がキリストに少しも同化していない証拠だとみなすことができる。自己、ただ自己だけが、崇敬の対象であり、クリスチャンだと公言するそのような一人のひとが多くの人々を神から迷い出させるのである。

わたしたちの上に民として、教会員に自分たちの信仰と矛盾したあり様で衣服を身につけることを許してきたという恐るべき罪がある。わたしたちはただちに立ち上がり、流行の魅惑に対して戸を閉ざさなければならない。こうしない限り、わたしたちの教会は墮落することになる。」（教会への証 4 巻 647, 648）

4. 残りの民に保証された救出

- a. テモテ第一 2:8-10 に調和して、イザヤ 3 章と 4 章の預言はどのように神の聖なる残りの民のための最終的な勝利を予見していますか（イザヤ 4:3, 4）。

「ピューリタンの質素と単純さが、この時代のための厳粛な真理を信じるすべての人の住まいと衣服を特徴づけるべきである。」（教会への証 5 巻 189）

「敬虔さの持つ力は、多くの教会からほとんど姿を消している。行楽・演劇・バザー、りっぱな建物、信徒の華美な装いなどが、神の思いを遠ざけてしまっている。土地、財産、世俗の職業が心を奪い、永遠のことに気を配るものはほとんどいない。

しかし、信仰と敬虔さが一般に衰微したとはいっても、これらの教会の中に、キリストの真の弟子たちがいるのである。地上に神の最後のさばきが下るに先だって、主の民の間に、使徒時代以来かつて見られなかったような初代の敬虔のリバイバルが起きる。神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる。その時、多くの者が、神と神の言葉の代わりにこの世を愛してきた諸教会から離れる。牧師も信徒も、多くの者が、主の再臨に民を備えさせるために神が今宣布させておられるこれらの大真理を、喜んで受け入れる。」（各時代の争闘下巻 190）

- b. このことは、どのように悩みの時におけるわたしたちの安全のための鍵となりますか（イザヤ 4:5, 6; 33:14-16）。

「主は幻の中でくりかえし、悩みの時の現世の必要に備えることは、聖書に反していることを示してこられた。わたしはもし聖徒たちが自分たちであるいは畑に食糧を蓄えても、剣や飢饉や疫病が地に起こる悩みの時には、それが暴力によって彼らから奪われ、彼らの収穫を他人が刈り取るようになることを見た。その時はわたしたちにとって完全に神に信頼すべき時であり、このお方がわたしたちを支えて下さるのである。わたしは自分たちのパンも水もその時に確保され、欠けたり、飢えに苦しんだりすることはないことを見た。主はわたしにご自分の子らのある者が、食物の価格が上昇するのを見て恐れ、食べ物を買ってそれを悩みの時のために蓄えることを示された。それから必要な時には、彼らが自分たちの食物のところへ行つてそれを見た時、それらは虫がわき、生き物でいっぱいになっていて、とても使用できないことを見た。」（主は来られる 181）

5. 目のくらむような世の中での柔和

- a. 神はご自分の最後の忠実な残りの民への召しをどのように要約なさいますか（ゼパニヤ 2:1-3; 3:8-13）。
- b. このように柔和を求めるにあたり（ゼパニヤ 2:3）、わたしたちはこの特徴に欠けた人に与えられた勧告から何を学ぶことができますか（ペテロ第一 5:5）。

「あなたは存在してもいない悩みや試練を想像している。小さなわずらわしさを嘆かわしい試練にまで大げさにしている。これはキリストが祝福された柔和ではない。それは聖化されていない反逆的で親不幸な不満である。柔和は貴重な恵みであって、喜んで静かに苦しみ、試練に耐える。柔和は忍耐強くだのような状況下にあっても幸せであるために労する。柔和はいつも感謝に満ち、神に向かって心からさんびを奏でながら、それ自身幸福の歌をうたう。柔和は失望や悪に耐え、復讐しない。柔和はだまって不機嫌にしていることではない。不機嫌な気質は柔和の反対である。なぜなら、それは他の人々を傷つけ痛みを与えるだけで、それ自体に何の喜びももたらさないからである。

あなたはキリストの学校に入ったばかりである。あなたはほとんどすべてをこれから学ばなければならない。あなたは今ぜいたくな衣服を身につけてはいないが、外見の誇りがある。あなたは単純さを少なくして衣服を着たいと望んでいる。あなたは考えるべき以上に相当衣服のことについて考えている。……〔マタイ 11:28-30 引用〕。あなたの首をキリストがおかれるくびきの下に従わせなさい。そうすればあなたはこの服従こそ、自分自身の方法に従うことによって自分自身のやり方で自分自身に得ようとしてきた幸福そのものであることを見出すようになる。

あなたはもし自分の思想さえもキリストのみ旨の支配下に置くならば、快活でいられる。一刻も遅らせるべきではない。あなた自身の心を厳密に探り、日々自己に死になさい。」（教会への証 3 巻 335, 336）

個人的な復習問題

1. わたしたちはエリヤの働きと使命を、どのように自分たち自身のものと比較できますか。
2. 祈りに対する答えが遅れるとき、わたしたちは何をすべきですか。
3. わたしたちの文字通りの衣服は、わたしたちの霊的な召しをどのように反映しますか。
4. 何が忠実なわずかな人々の衣服、ふるまい、また家庭を特徴づけるべきですか。
5. わたしたちはどのようにキリストの柔和という重要な恵みを培うことができますか。

わたしたちの犠牲の嗣業

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ 1:29)

「見なさい、ああ、カルバリーの十字架を見なさい。あなたのために苦しんでおられる王家の犠牲を見なさい。」(彼を知るために 65)

推奨文献： 各時代の希望下巻 261-268, 274-281

日曜日

11 月 18 日

1. 魂の苦悩

a. 神の御子の苦悩について、何が記されていますか (マタイ 26:38)。

「地上における神の御子の 30 年の生涯の間、このお方の心を裂いた苦悩について、幾分でも概念をもっている人は、なんとわずかなことであろう。まぶねからカルバリーまでの道のりは、悲しみと悲嘆の影が落ちていた。このお方は悲しみの人であり、どんな人間の言葉でも描写できないほどの心の痛みに耐えられた。」(彼を知るために 66)

b. イエスの苦しみはどのようにもっとも生々しく描写されていますか (イザヤ 53:3-5, 7, 8)

「完全な憎しみをもって罪を憎みながら、〔悲しみの人〕はなお、ご自分の魂に全世界の罪を集められ、カルバリーの道をたどりながら、不法者の刑罰に苦しめられた。無実でありながら、このお方は有罪人の刑罰を負われた。潔白でありながら、神の律法の不法の刑罰を担ってご自身を捧げられた。すべての魂の罪の刑罰は無限の神の御子によって負われた。すべての罪の罪深さが世の贖い主の神聖な魂に重くのしかかった。」(同上)

「〔崇敬にふさわしい贖い主〕は、世の目の前で、戦場の人々のように栄誉をたくさん受けた英雄として死なれたのではなかった。このお方は有罪宣告を受けた犯罪人として死なれ、天と地の間かけられた。すなわち、卑しく犯罪を重ねた放蕩な群衆の嘲りと悪口にさらされながら、長引く恥辱の死にあわれたのである。」(同上 68)

2. 心を引き裂く光景

- a. わたしたちの心は十字架上のキリストを眺めることによって、どのようにやわらげられ、征服されるべきですか（ルカ 23:33, 34）。

「あなたは、十字架を目の当たりにし、信仰の目によってキリストの苦しみを眺めながら、自分の苦悩や自分の試練の話ができるであろうか。あなたはキリストの青ざめた震える唇からご自分を罵る人々、ご自分の殺害者たちのための『父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです』（ルカ 23:34）とのキリストの祈りが出てくるときに、自分の心の中で敵への復讐心をいだくことができるであろうか。」（彼を知るために 65）

- b. わたしたちのうちにある遺伝的に誇り高い心にとって、各々十字架を眺めることは、どのように实际的に益となることができますか（ペテロ第一 1:18-21; ヨハネ 1:29）。

「カルバリーの光景をいつも生き生きと記憶している魂のうちには、高慢と自己崇拜の思いは栄えることができないからである。」（各時代の希望下巻 142）

「わたしたちは十字架の許でへりくだって悔い改めのうちにふさわしい場所を占めるべきである。カルバリーの山に登り、十字架をあおいで、苦悩のうちにある救い主、神の御子、義なるお方が、不義なる者のために死んでいかれるのを見るときに、柔和と思いのへりくだりの教訓を学ぶことができる。一言でご自分を助けるために天使の軍勢を招集できるお方、からかいと嘲笑、悪口と憎しみの的なるお方を見よ。このお方は罪のための犠牲としてご自身を捧げられる。このお方はののしられても、ののしり返さず、偽って告発されてもご自分の口を開かれなかった。このお方は十字架上でご自分の殺害者のために祈られる。このお方は彼らのために死につつある。このお方は彼らの一人びとりのために無限の代価を支払っておられる。このお方はこれほど大きな代価を払って買われたものを一人も失いたくないのである。このお方は一言のつぶやきもなく、打たれ、むちでたたかれた。そしてこのつぶやかない犠牲なるお方は、神の御子なのである。このお方の王座はとこしえであり、このお方の王国に終わりはない。」（彼を知るために 65）

「天の大君のこの屈辱はすべて、罪人のため、有罪宣告を受けた人間のためであった。このお方はその屈辱のうちに、人間をその道徳的汚れから引き上げるため、これ以上低い深みに届くことができないところまで低くなおも低く下って来られた。これらすべてはあなたのためであった。」（同上 68）

3. 罪の重い代価

- a. キリストの犠牲に対する感謝の欠乏は、わたしたちの自己放縦に向かう生来の傾向とどのように関係がありますか（ヘブル 10:26）。

「神の律法を守ると公言していながら、心では罪にふけっている人々はまことの証人によって有罪を宣告される。彼らは真理の知識において豊かになったと主張するが、聖なる原則に調和した状態にない。真理は彼らの生活を聖化していない。神のみ言葉は戒めを守ると公言しながらその生活がその信仰に矛盾している人は、目の見えない者、あわれむべき者、貧しい者、裸な者であると宣言なさる。」（信仰と行い 31）

- b. 罪と律法と十字架の間の関係を説明しなさい（ローマ 7:7; ヨハネ第一 3:4, 5）。

「イエスはご自分の民をそのもろもろの罪から救うために死なれた。そしてキリストにある贖いとは、神の律法の違反をやめて、すべての罪から自由になることを意味する。神の律法に対する敵意にかきたてられる心は、宇宙の前で律法の正当性を実証し、高めるためにカルバリーで苦しまれたキリストとの調和のうちにない。」（同上 95）

「キリストへのわたしたちの愛は、わたしたちの罪の自覚の深さに比例する。律法によって罪を知るようになる。しかし、わたしたちが自分自身を見るとき、わたしたちをすべての悪から贖うために、わたしたちのためにご自身を捧げられたイエスに目を転じよう。信仰によってキリストの功績をつかみなさい。そうすれば魂を清める血潮が塗られる。わたしたちが自分たちのさらされてきた悪と危険をはっきり見れば見るほど、キリストを通しての救出にますます感謝するようになる。キリストの福音は律法を犯す許可を与えるのではない。なぜなら、苦悩の門をわたしたちの世に向かって開いたのは、不法を通してだったからである。

今日罪はアダムの時と同じようにきわめて有害なものである。福音は悔い改めずに神の律法を犯す人には、何の神の恩寵も約束していない。人間の心の腐敗、不法の罪深さ、罪の墮落はみな、キリストがわたしたちのために逃れの道を備えて下さった十字架によって明白にされた。」（同上 96）

4. 平和の君を理解する

- a. キリストの十字架の驚くべき引きつける力について、靈感は何を教えてくださいか(ヨハネ 3:14, 15; 12:32)。

「カルバリーの十字架は力のうちに訴えており、わたしたちがなぜ今キリストを愛すべきか、またなぜわたしたちがこのお方を万事において最初に最善に最後に考慮すべきかという理由を与えている。」(彼を知るために 65)

「もしあなたが自分の罪を自覚するなら、それらを嘆くためにあなたの力を使い果たしてはならない。そうではなく見て生きなさい。イエスがあなたの唯一の救い主であられる。」(セレクト・メッセージ 1 巻 352)

- b. キリストの義を自分自身のものとする最初の一步は何ですか (ヨハネ 6:37; コリント第二 5:21; ヨハネ第一 1:9)。

「だれ一人として自分の場合は希望がないと感じることがないようにしよう。なぜなら、そうではないからである。あなたは自分が罪深く、汚れたものであることを知るであろう。しかし、まさにそれがゆえに、あなたには救い主が必要なのである。もしあなたに告白すべき罪があれば、一刻も失ってはならない。これらの時は黄金である。『もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、彼は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる』(ヨハネ第一 1:9 英語訳)。義に飢え渴いている人々は、満たされる。なぜなら、イエスがそれを約束なさったからである。」(同上 352, 353)

- c. キリストの十字架における比類のない犠牲は、わたしたちに何を吹き込むべきですか。受け入れられる礼拝に関連して、特にクリスマスや贈り物のやり取りなど異教の祭りに従うことにおいて、クリスチャンだと公言する人々は、どのように物ごとの順序を逆にすることができますか。(コリント第二 9:15, エレミヤ 10:1-6)。

「昨日はクリスマスであった。あなたは博士たちがしたように、あなたの贈り物をイエスにお捧げしたであろうか。あるいは敵が物ごとの順序を変え、礼拝を自分自身に向けてしまったであろうか。贈り物は今、わたしたちのためにあれほど大きな犠牲を払って下さったお方の代わりに、友人たちに与えられている。すべての賜物は他の水路、すなわち人の救いのために用いられるところに流れるべきである。」(上を仰いで 374)

5. 動機となる力

- a. わたしたちは天使たちがキリストの犠牲を感謝していることから、何を学ぶことができますか（黙示録 5:11, 12）。
- b. キリストの十字架は、実際にどのようにわたしたちに動機を与えますか（ローマ 5:8-11; ガラテヤ 5:6; コリント第二 5:14, 15）。

「あなたに足りないのは働く信仰である。それはどのように働くのであろうか。それは愛によって働く。愛とは何であらうか。それは、カルバリーの十字架から流れている愛である。それは地と天の真ん中に据えられている。そして救いはこの十字架を眺めることによって得られる。御父はそれを受け入れられた。天使たちはその十字架の許へ来た。そして神ご自身が犠牲を受け入れて頭を垂れられた。それは天の要求に答えている。そして人はイエス・キリストを信じる信仰をもちさえすれば、このお方を通して救われることができるのである。十分にして完全な欠けるところのない犠牲を通して、人が神に、そして神が人に和解させられる。……

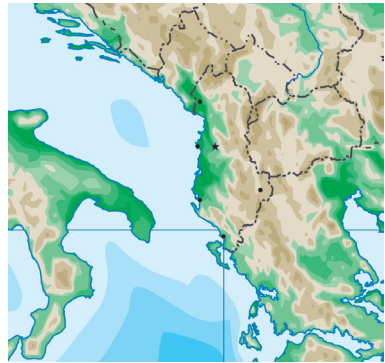
今、わたしたちがひとすじの光線を見るとき、それをつかみたいのである。悪魔がいつもこれに反対して働いている。カルバリーの十字架上のイエス・キリストによって証言されるのは、愛によって働く信仰である。それはこのお方がわたしの魂に対して持っておられる愛である。キリストはわたしのために死なれた。このお方は無限の代価をもってわたしを買われた。そしてこのお方はご自分にとって不快なのはすべて贖って下さった。わたしはこのお方と共に働く共労者とならなければならない。わたしはこのお方のくびきをわが身に置かなければならない。わたしはキリストのくびきを負わなければならない。わたしはこのお方の重荷を持ちあげなければならない。はまっていた罪深い状態からどのように引き上げられ、生きた信仰によってキリストのうちにある義をつかむかを、他の人々に教えなければならない。それが罪人の救われ得る唯一の道である。」（信仰と行い 72）

個人的な復習問題

1. カルバリーは何を示していますか。
2. この主題は、わたしたちの態度にどのような影響を及ぼすべきですか。
3. キリストの十字架は神の律法について、わたしたちに何を教えますか。
4. 十字架の引き寄せる力を説明しなさい。
5. わたしたちはどのように、わたしたちのための救い主の十字架に答えるべきですか。

第一安息日献金

アルバニアの礼拝堂のために



アルバニアは、総面積が 28,748 平方キロメートルで、バルカン半島の南西に位置したヨーロッパの国です。国境は、モンテネグロ（北西）、コソボ（北東）、マケドニア（東）、ギリシャ（南と南東）、アドリア海（西）、そしてイオニア海（南西）に面しています。人口は 2,831,741 人です（2011

年国勢調査）。公用語はアルバニア語で、主な宗教はイスラム教 70%、ギリシャ正教会 20%、そしてカトリック 10%です。40 年以上アルバニアは非常に厳しい共産政権の下、閉鎖された国であったため、いかなる形態の宗教も撲滅され、無神論を強要されてきました。1990 年以来、アルバニアは共産主義の圧政から自由になり、今や宗教の自由が憲法によって与えられています。

ごく当初に改革運動の伝道の働きがなされたのは、ほんの 2002 年のことです。イタリアからのカンポドニコ兄弟が、大学の奨学金のおかげでアルバニアに移住してきました。ここにいる間、彼は 400 枚の小さなアルバニア語のパンフレットを渡す機会がありました。数年後、A. サスカウというルーマニア出身でイタリアに住んでいた兄弟がアルバニアでいくつか訪問しました。2008 年にブローレで賃貸集会所が、教会の礼拝のために開かれました。ルーマニアとドイツ連合、クロアチアとイタリアフィールド、そして世界総会の援助のおかげで、アルバニアにおける伝道の働きや奉仕活動のための出版物を印刷し、供給するための資金が備えられました。2010 年に一人の若い働き人（ルーマニアからのパウレスキュ兄弟）とその家族が、定住伝道家族としてアルバニアに来るようにとの召しを受け入れました。神のみ助けにより、働きの伝道地はたやすいものではありませんが、この兄弟は今日現代の真理を分かちために最善を尽くしています。

アルバニア・ミッションの現在の必要は、皆さんのお祈りの他、まずは礼拝堂を確保するための資金的な援助です。どうかそれがアルバニアの人々に福音と現代の真理の光線を放散するための恒久的な灯台となりますように。この理由のために、またアルバニア・ミッションのために、使徒パウロ自身が福音を伝えた（ローマ 15:19, 20 参照）世界のこの地域における主の働きの必要性をご考慮いただき、主のための記念塔をここに持つための皆さんのおしめない資金的な援助をもってわたしたちを助けて下さいますようお願いいたします。皆さんの援助を先立ってお礼申し上げます。そして主が皆さんを祝福して下さいように！

アルバニアの兄弟姉妹より

天の金に投資する

「富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買い……なさい。」(黙示録 3:18)

「主はご自分の民のために、単なる外面的な礼拝よりもすぐれたものがあることをお示しになる。このお方は彼らに純粹で汚れのない宗教をお命じになる。このお方がご自分から買うようにと命じられる金は、品性の金である。」(世界総会冊子 1909 年 6 月 6 日)

推奨文献： キリストの実物教訓 92-99

日曜日

11 月 25 日

1. ラオデキヤ時代に生きている

- a. ラオデキヤとして知られている教会歴史の時代—1844 年以降—に生まれたすべてのクリスチャンが生まれつき受け継いだ傾向を述べなさい (黙示録 3:17)。この問題について、わたしたちは何をすべきですか。

「〔黙示録の〕七つの教会の名は、西暦紀元の異なる時代における教会を象徴している。」(患難から栄光へ下巻 290)

「ラオデキヤ教会へのメッセージは、わたしたちの状態に当てはまる。」(ビュー・アノド・ヘラルド 1889 年 7 月 23 日)

「最後の教会のための警告……は、クリスチャンだと主張するすべての人に宣布されなければならない。ラオデキヤのメッセージは、鋭いもろ刃の剣のように、すべての教会へ伝えられなければならない。」(教会への証 6 巻 77)

- b. わたしたちは各自、ラオデキヤへのメッセージを研究するときに、何を理解しなければなりませんか (コリント第二 10:12; 13:5)。

「〔ラオデキヤへの〕メッセージは、ある兄弟が自分の兄弟に対して裁きの座につき、何をなすべきか、またちょうどどれくらいまで進むべきかを命じるよう導くために意図されたものではない。そうではなく、各個人が自分自身の心を探り、自分自身の働きに注意を払うべきである。」(霊的賜物 2 巻 223)

2. 価値ある商品

- a. まことの証人がラオデキヤへ勧告している第一になすべきことは何ですか。また、なぜわたしたちはこれをそれほど緊急に必要としているのですか（黙示録 3:18 上句）。

「偉大な贖い主は、ご自分の富を積んで戸別に訪問し、無限の価値をもつ品々を提示している天の商人として表しておられる。」（バグル・コメンタリ [E. G. 初版コメント] 7 巻 965）

「信仰と愛は真の富であり、まことの証人が生ぬるい者に買うようにと勧告しておられる純金である。どれほど地上の宝に富んでいようと、わたしたちの全財産でも生ぬるいと呼ばれている魂の病気を癒す貴重な薬を買うことはできない。……

ここで勧められている火で精錬された金は、信仰と愛である。それは心を富ませる。なぜなら、それは純金になるまできよめられたからである。そして、それが試されれば試されるほど、ますますその輝きを鮮やかにする。……

ある者は、わたしたちの良い行いを通して、神から恩寵を期待することは、自分自身の功績を高めることだということかもしれない。たしかに、わたしたちは自分の良い行いで一つの勝利も買うことはできない。しかしなお、良い行いなしに勝利者になることもできない。キリストがわたしたちに勧めて下さっている買い物は、ただこのお方がわたしたちに与えて下さった条件に従うことである。真の恵みは、計りしれない価値をもち、試練と逆境のテストに耐えるが、信仰とへりくだった祈りを伴う従順を通してのみ得ることができる。苦難と迫害の試験に耐え、彼らの健全さと誠実さを立証する恵みは、火で精錬され、本物であることが判明した金である。キリストはこの尊い宝を人に売ろうと申し出ておられる。『わたしから火で精錬された金を買ひ……なさい』。死んだ心のこもっていない義務の遂行は、わたしたちをクリスチャンとはしない。わたしたちは生ぬるい状態から抜け出て、真の改心を経験しなければならない。さもなければ、わたしたちは天国を得ることができない。」（教会への証 4 巻 88, 89）

- b. 何が天の金の差し迫った必要を明らかにしていますか（エゼキエル 33:30-33）。

「多くのすぐれた働きがラオデキヤ教会に授けられた。彼らに『それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい』という訓告が与えられた（マタイ 5:48）。しかし、教会は神の使命者たちによって始められた働きを続けなかった。彼らは聞いたが、真理を自分たちにあてはめず、また自分たちに与えられた教えを実行しなかった。」（バグル・コメンタリ [E. G. 初版コメント] 7 巻 964）

3. わたしたちの貧しさの証拠

- a. ラオデキヤのメッセージが、実際わたしたちに個人的にあてはまることを疑うわたしたちの生来の傾向を、何が描写していますか (エレミヤ 17:9; マルコ 4:17)。

「わたしは神の民の間の神のみ摂理を指し示され、そしてクリスチャンだと公言する人々に臨む精錬し清める工程によって生じた一つ一つの試練が、ある者がかすであることを証明することが示された。いつも純金が現れるとはかぎらない。どの宗教的な危機においてもある者は誘惑の下に脱落した。神のふるいは、群衆を落ち葉のように吹き払った。繁栄は、公言者の集団を増し加える。逆境は、彼らを教会から清める。その部類はその精神が、神に定着していない。彼らがわたしたちから出ていくのは、彼らがわたしたちに属する者ではないからである。なぜなら、み言葉のゆえに苦難や迫害が生じると、多くの者がつまずくからである。

これらの人々は、数か月前に今自分たちが占めているのと同様な状態にあった人々の事情を審議していたときのことを振り返ってみなさい。これらの誘惑された人々に関して、自分たちの思いをどのように働かせたか注意深く思い起こしてみなさい。」(教会への証 4 巻 89)

「天の商品がわたしたちの教会に提供されている。すべての個々人はキリストの招きに確固とした関心を示す必要がある。兄弟姉妹がた、あなたの考えは次のようであろうか。『この鋭い断固とした言葉はわたしのことではない。わたしはある人々もっているような熱意と熱心さをそのまま持っているとはいえないかもしれないが、霊的にそれなりにいい状態にある。わたしは真理を信じている。これらのメッセージに属する人々は、それを受け入れたらよいだろう。ある人々には必要だろうから』。このように考え、理由づけているあなたこそ、まさにこのメッセージに属する人であることをしさと知りなさい。」(パイブル・コメンタリ [E. G. ホットコム] 7 巻 964, 965)

- b. この金が深刻なまでに欠乏していることを表す他の症状を述べなさい (マタイ 15:8; ヘブル 3:12)。この問題はどのように癒すことができますか。

「信仰と愛は金の宝、神の民の間に大いに欠乏している要素である。わたしは警告、励まし、譴責の証を信じない不信仰が、神の民から光を締め出しているのを示された。」(教会への証 3 巻 255)

「高価な天の商品があなたの前に広げられている間に、近づいてあなたの失ったもの一愛と信仰という金一を買いなさい。」(パイブル・コメンタリ [E. G. ホットコム] 7 巻 965)

4. 「買う」

- a. 天の商品は無償であるはずなのに、どのようにして「買う」ことができますか（イザヤ 55:1, 2）。

「救いは無償で与えられる賜物であるが、また売買されるものでもある。神の恵みの支配下にある市場で高価な真珠は、金なく価なくして売買されるものであるといわれている。だれでも、この市場で、天の財宝を手に入れることができる。真理の宝庫は、万人に開かれている。『見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた』と主はおおせになる。この門の通路を守るつぎはない。門からも、門の内側からも、きたれという声が聞こえる。『そこで、あなたに勧める。富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買え』と救い主のみ声は、しきりにやさしく訴えているのである（黙示録 3:8,18）。

キリストの福音は、すべての者が持つことのできる祝福である。どんなに貧しい人でも、どんなに富んでいる人でも同じように、救いを買うことができる。これはどんなに地上の富を積んでも買えるものではない。喜んで神に従い、わたしたちを、キリストご自身があがなわれた所有としてキリストにささげることによって、得られるのである。どんな高等教育を受けても、ただそれだけで、神に近づくことはできない。パリサイ人は、物質的に霊的にあらゆる特権をもっていて、『自分は富んでいる、豊かになった、なんの不自由もない』と誇っていたが、実は、『みじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない』（黙示録 3:17）。……

救いは、人間の努力によって得られるものではない。しかし、この世界のいっさいをなげうつほどの熱誠さと忍耐をもって求めなければならないものである。

わたしたちは、高価な真珠を求めなければならないが、それは、この世の市場やこの世の方法によるのではない。支払うべき価は、金や銀ではない。金銀は神のものである。自分は物質的に、霊的に恵まれた立場にあるから、救いを得られると思ってはならない。神は、あなたが心から服従することを求めておられる。罪を捨てよとおおせになるのである。……

ある人びとは、つねに、天の真珠を求めているように見えるけれども、彼らは、自分たちの悪習慣を全く放棄していない。彼らは、キリストが彼らの中に生きてくださるために自己に死ぬことをしない。彼らが高価な真珠を見いだすことができないのはそのためである。彼らは、まだ、汚れた野心や世の快楽を愛する心に勝利していない。彼らは、キリストにならって十字架をとって、克己と犠牲の道を歩かない。九分通りクリスチャンではあるが、完全なクリスチャンになっていない。天国に近いようではあるが、天国にはいることはできない。完全ではなくて、九分通り救われていることは、九分通り失われていることではなくて、完全に失われていることである。」（キリストの実物教訓 94, 95）

5. 金を精錬する

- a. このラオデキヤの時代の間に、わたしたち一人びとりの心の中に成し遂げたいと望んでおられる働きを述べなさい (マラキ 3:3, 4)。

「わたしたちの品性において神の都に入ることのできないものはすべて取り除かれる。もしわたしたちが主の精錬に服するならば、すべてのかすと混ざりものは焼き尽くされる。主の選ばれた者がこの時代にふさわしい光を受け入れるならば、彼らは自らを高めるように導かれることはない。彼らは自分自身の品性を測るための標準を造りださない。なぜなら、主が一つの標準を与えて下さったからであり、それによってすべての品性はテストされるのである。」(バイブル・コメント [E. G. ホワイトメント] 4 巻 1181)

- b. この精錬の工程がどのように成し遂げられるか、実際的な例をいくつか挙げなさい (ローマ 5:1-5)。

「厳しい精神の人は精錬されておらず粗野である。彼は霊的でなく、やわらかい心ではなく、石のように感動を受けない心を持っている。彼の唯一の助けは、岩の上に落ちて砕けることである。主はそのような人々をみなすつぼの中に入れ、金を試すように、彼らを火で試される。主が彼らのうちにご自分の姿が反映していることをご覧になるとき、このお方は彼らを取り除かれる。しかし、もし本物の金でないことがわかれば、そのとき彼らはかすのように焼き尽くされるのである。」(原稿 17 巻 116)

「信仰と愛、すなわちわたしたちの贖い主の尊く美しい特質を買いなさい。これらは、わたしたちがこのお方を知らない人々、すなわち冷たくて、不信と罪を通してこのお方から離れている人々の心に入る道を見出せるようにする。」(バイブル・コメント [E. G. ホワイトメント] 7 巻 964)

個人的な復習問題

1. なぜキリストはわたしたちがご自分の金を必要としていると強調なさるのですか。
2. わたしたちの怠惰によって、どのようにキリストの申し出を拒む危険がありますか。
3. この霊的な金はいくらですか。
4. なぜ金は特にこの終わりの時代に価値があるのですか。
5. わたしたちが買う霊的な金から他の人々がどのように恩恵を受けますか。

白い衣

「また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買いなさい。」
(黙示録 3:18)

「神と共に働く者になりたいと思う者がだれでも学ばねばならない第一のことは、自分にたよらないという教訓である。その時彼らはキリストの品性を与えられる用意ができる。」(各時代の希望上巻 310)

推奨文献： キリストの実物教訓 130-144; 289-298

日曜日

12月2日

1. どちらの衣を着るべきか？

- a. ラオデキヤにある霊的な裸は、実際どのように人類歴史を通じて起源を持っているかを説明しなさい (黙示録 3:18; 創世記 3:6-10)。

「神が人類を最初に聖なるエデンに置かれたとき、彼らが着ていたのは純潔という白い衣であった。彼らは神のみこころに完全に一致した生活を送った。彼らの深い愛情はことごとく天の父にささげられた。美しく柔かい光—神の光が一罪を知らぬアダムとエバを包んだ。この光の衣は、天与の純潔という霊的な着衣の象徴であった。もし彼らがずっと神に真実を尽くしていたら、彼らはいつまでもその光に包まれていたはずであった。しかし罪が侵入したとき神とのつながりは断たれ、それまで彼らを取り囲んでいた光は消え去った。彼らは裸となった自分の身を恥じて、いちじくの葉をぬい合わせておおいを作り、それを天の衣の代わりにしようとした。

これは、アダムとエバが神にそむいて以来、神の律法の違反者がつねに試みてきたことである。彼らは違反によってあらわれた裸をおおうために、いちじくの葉をぬい合わせて着た。彼らは自分でくふうした衣を着てきた。彼らは自分のわざによって罪をおおい、神に受け入れられようとしてきた。

しかしこれはできることではない。人は、失われた純潔という衣の代わりになるものを工夫することはできない。」(キリストの実物教訓 290, 291)

2. キリストの義に信頼することを学ぶ

- a. キリストは地上におられる間に、神の義をどのように表されましたか（イザヤ 42:21）。このお方の生涯に浸透していた態度を述べなさい（詩篇 40:8）。
- b. 義に関して、わたしたちが直面する危険を述べなさい（士師記 21:25）。

「自己義はこの時代のための危険である。それは魂をキリストから分離させる。自分自身の義に頼る人々は、キリストを通して救いが来るということを理解することができない。彼らは罪を義と呼び、義を罪と呼ぶ。彼らには不法の邪悪さについて正しい認識がなく、律法の恐ろしさについての理解がない。なぜなら、彼らは神の道徳的標準を尊重しないからである。これほどこの時代に偽物の改心が多い理由は、神の律法についての認識があまりにも低いからである。神の義の標準の代わりに、人は品性を測る自分自身の標準を立ててきた。彼らは鏡に映すようにおぼろげに見て、人々に聖化に関する間違った考えを提示する。こうして自己中心、誇り、自己義が促進される。多くの人が採用する聖化の教理は欺瞞に満ちている。なぜなら、それは生来の心へつらうからである。しかし、罪人に説くことのできる最も親切なる事柄は、神の律法の拘束力ある要求についての真理である。」（信仰と行い 96, 97）

- c. わたしたち自身と誤っている人々へのわたしたちの態度を、何が特徴づけるべきですか（イザヤ 6:1-7; エゼキエル 9:4）。

「終末の時にあって、神の民は地に行われる憎むべきことを、嘆き叫ぶのである。彼らは涙を流して、神の律法を ふみにじる危険について悪人たちに警告を発し、言語に絶した悲しみをもって、主の前にへりくだり罪を悔いる。悪人たちは彼らの悲しみをあざけり、彼らの厳粛な訴えを嘲笑する。しかし、神の民の苦悩と屈辱とは、罪の結果失われた品性の力と高貴さを、彼らが回復しつつある間違いのない証拠である。彼らが罪のはなはだしい邪悪さをはっきり認めるのは、彼らがキリストに近づき、彼らの目がその完全な純潔さを凝視するからである。柔和と謙遜が、成功と勝利の条件である。」（国と指導者下巻 195, 196）

3. 二人の礼拝者

- a. どのような間違った義の概念が、自分は良心的なクリスチャンだと信じている多くの人々の生活を低下させていますか（イザヤ 65:2-6; ルカ 18:9-12）。

「パリサイ人の宗教は魂になんの変化も起こさない。彼は、品性が神に似てくることや、愛とあわれみの心を求めようとしない。ただ上べだけの宗教に満足している。彼の義は、自分の義、つまり、彼自身の行ないの結果であり、人間の標準によって評価されたものである。

だれでも自分はただしいと自認するものは、他を軽べつする。パリサイ人は他人を標準にして自分を評価するように、自分を基準にして他をさばくのである。彼の義は、人びとの義によって評価されるから、人びとが悪ければ悪いほど、対照的に彼のほうがただしく見えるのである。こうした自分を義とする精神をもつと、他を非難するようになる。「ほかの人たち」は、神の戒めを犯していると宣言する。こうして、彼は兄弟を訴えるものであるサタンの精神をあらわすのである。この精神をもっているならば、神との交わりに入ることができない。彼は神の祝福を受けないで、自分の家に帰っていく。」（キリストの実物教訓 131）

- b. その一方、すべての悔いた魂にどのような天から送られた慰めが及んでいますか（ルカ 18:13, 14; 詩篇 51:17）。

「キリストは、わたしたちの身代わりであると同時に保証人となることを約束しておられて、どんな人でもおろそかになさらない。主は人類が永遠の滅びにおちいろうとしているのを見るに忍びず、人類のために死に至るまでご自分の魂を注ぎ出されたのである。主は、自己をみずから救うことができないことを認めたすべての魂にあわれみと同情をよせられるのである。

主はおのきつつ嘆願する者を、必ず助け起こしてくださる。主は、贖罪によって、つぎることのない道徳的能力をわたしたちのために備えてくださったから、必ずこの力をわたしたちのために用いてくださる。主は、わたしたちを愛しておられるから、わたしたちは、罪も悲しみとともに主の足もとにおけばよい。イエスのお顔のどの表情もまたどのことばもすべて主に対する信頼を起こさせる。主はみ心のままにわたしたちの品性をお造りになる。」（同上 136, 137）

「神がどんなに清く、尊いかたであるかをめい想することによって始めて、わたしたちは、自分がどんなに弱く貧しく、またどんな欠点があるかを、そのまま見るようになる。わたしたちも、他のすべての罪人と同様に、自分の義の衣をまとい、墮落と絶望の中に沈んでいることをさとり。もし、わたしたちが救われたとするならば、わたしたち自身の善行によるのではなくて、全く神の無限の恵みによるものであることを知ることであろう。」（同上 139）

4. 着せられること、そして与えられること

a. キリストの義はどのようにわたしたちに着せられますか(ローマ 3:23-26; 5:17-19)。

「わたしたちは罪深く汚れているので、きよいおきてに完全に従うことができない。神のおきての要求に応じうる義を持ちあわせていない。しかしキリストは、わたしたちのために逃れる道を備えてくださった。キリストは、この地上でわたしたちが会わねばならない試練と誘惑のまっただ中で生活し、罪なき生涯を送られた。そして、わたしたちのために死に、今やわたしたちの罪を取り除いて、おのれの義を与えようとしておられる。もし自分をキリストにささげ、キリストを自分の救い主として受け入れるならば、その生涯はこれまでいかに罪深いものであっても、このお方のゆえに義とみなされるのである。キリストの品性があなたの品性の代りとなり、神の前に全然罪を犯したことの無いものとして受け入れられるのである。」(キリストへの道 82)

b. キリストはわたしたちのうちに、またわたしたちを通して他に何をしようと望んでおられますか。またこれはどのように起こりますか(ガラテヤ 2:20; ヨハネ 16:13 上句)。

「キリストはわたしたちの心までも変えてくださる。信仰によって、キリストは心のうちに住まわれる。こうして、信仰と、たえずキリストに自らの意志を従わせることによって、キリストとの関係を持続するのである。このようにするかぎり、キリストはあなたのうちに働いて、み旨に従って志をたて、行うことができるようにして下さる。……こうしてキリストがわたしたちのうちに働きになるならば、わたしたちは、キリストと同じ精神を表わし、同じ業一正しい行為、つまり服従をするようになるのである。」(同上 82, 83)

「人が自分自身の心をキリストにささげるとき、心はキリストの心と結合し、意志はキリストの意志に没入し、精神はキリストの精神と一つになり、思いはキリストのうちにとらわれて、わたしたちはキリストのいのちを生きる。これがキリストの義の衣を着ることである。そして、主がわたしたちをご覧になるとき、いちじくの葉の衣でも、裸と罪のみにくきでもなく、エホバなる神の律法への完全な従順であるご自分の義の衣をお認めになる。」(キリストの実物教訓 292)

「勝利は多くの熱心な祈りなしに、また一步ごとに自己をへりくだらせることなしに勝ち取られるものではない。わたしたちの意志は神聖な代理人との協力へ強制されることはない。そうではなく、それは自発的に明け渡されなければならない。」(サインズ・オブ・タイムズ 1904 年 5 月 18 日)

「イエスはわたしたちがご自分の徳を持つことができるように、単純な信仰を働かせるようにと望んでおられる。もしわたしたちがほんの一触の信仰さえ捧げるなら、神の光、栄光、力がわたしたちに与えられるのである。」(同上 1889 年 6 月 10 日)

5. 勝利者として身にまとう

- a. キリストはご自分の備えられる衣を着ることの命に関わる重要性をどのように描写なさいましたか (マタイ 22:1-4, 11-14)。それがわたしたちにとって何を意味するかを説明しなさい。

「礼服をつけずに婚宴に出席した人は、今日のわたしたちの世界の多くの人々を代表している。彼らはクリスチャンであると表明し、福音の祝福と特権にあずかることを主張するが、自分の品性が変えられる必要があるとは思っていない。彼らは真心から罪を悔い改めたことがない。彼らはキリストの必要を自覚せず、キリストへの信仰を働かせない。彼らは悪への先天的並びに後天的傾向に勝利していない。それにもかかわらず彼らは自分は高潔であると思っており、キリストに信頼せずに自分の功績にたよっている。彼らはみことばを聞きに婚宴にあつまが、キリストの義の衣を身につけていない。」(キリストの実物教訓 294,295)

- b. キリストにある本当の命を述べなさい (コリント第二 10:5; ペリピ 2:12, 13)。

「神はわれわれが自己にうち勝つことをお望みになっている。しかし、神は、われわれの同意と協力がなければ、われわれを助けて下さることができない。聖霊は人に与えられた力と能力を用いて働かれる。われわれは自分では、意志と願望と性向とを神のみ旨に一致させることができない。しかし、もしわれわれが喜んでそうするものになりたいと望むなら、救い主はわれわれのためにこれをなし遂げ……る。」(患難から栄光へ下巻 177)

白い衣は品性の純潔さ、罪人に与えられるキリストの義である。これは実に天の織物であり、自発的な従順の生涯をもって、ただキリストから買うことのできるものである。」(教会への証 4 巻 88)

個人的な復習問題

1. 「裸」の霊的な意味は何ですか。
2. 近代、わたしたちはどのように「イチジクの葉」の衣を造りだす危険がありますか。
3. パリサイ人と取税人の対照性を説明しなさい。
4. 着せられる義と与えられる義の違いは何ですか。
5. 白い衣の代価はいくらですか。

目薬

「あなたに勧める。……見えるようになるため、目にぬる目薬を買いなさい。」(黙示録 3:18)

「神聖な目薬は、理解力に明晰さを与える。キリストはすべての恵みの保管者であられる。このお方は『わたしから……買いなさい』と言われる(黙示録 3:18)。」(教会への証 4 巻 89)

推奨文献： 青年への使命 256-261

日曜日

12月9日

1. 雲った視界を晴らす

a. ラオデキヤに対するまことの証人の第三番目の推薦は何ですか。またそれをどのように適用しますか (黙示録 3:18 後句; マタイ 6:22)。

「注ぐための油は、〔キリストの〕恵みの油であり、それは盲目と闇の中にいる魂に霊的な視力を与える。それによって、彼が神の御霊の働きと敵の霊の働きの区別ができるためである。」(パイプル・コメント [E. G. ホワイトメント] 7 巻 966)

「目薬は敏感な良心、すなわち思いの内なる光である。それが物ごとを正しく見ることに、全魂と存在の霊的な健康がかかっている。『目薬』、すなわち神のみ言葉は適用すると良心が活発になる。なぜなら、それが罪を自覚させるからである。しかし、この活発さには癒しが続き、また目は一途に神の栄光を見る必要がある。罪人は道徳を調べる神の大いなる鏡のうちに自らを見ることによって、神がご覧になるように自分自身を眺め、神に対する悔い改めとわたしたちの主イエス・キリストへの信仰を働かせる。……

ラオデキヤは、……まったく盲目なのではない。さもなければ、目薬は彼らの視界を回復し、真のキリストの特質を識別させるのにまったく役に立たないはずである。キリストは、あなた自身の自己満足を捨て、どれほど大事であってもすべてのものを明け渡すことによって、金と衣とまた見えるために目薬を買いなさいと言われる。」(同上 965)

2. 識別力を求める

- a. 何がわたしたちの霊的な知覚力を乏しい識別力から苦しめる原因となりますか。またこれは大いなる光を委ねられている人々にさえ、どのように起こる可能性がありますか（ヨブ 6:30; ヨハネ第一 2:9-11）。

「罪人がキリストの許へ来たいと感じる前に、魂はまず罪を自覚させられなければならない。『罪は不法である』（ヨハネ第一 3:4）。『律法によらなければ、わたしは罪を知らなかった』（ローマ 7:7）。戒めがサウロの良心を深く刺したとき、罪は生き返り、彼は死んだ。彼は自らが神の律法によって有罪宣告を受けていることを悟った。罪人は何が罪を構成しているかを正しく理解しない限り、自分の罪を自覚することはできない。個人個人が、キリストを信じていれば、神の律法に従おうと従うまいと大したことではないと考えている間は、聖書の聖化を経験することは不可能である。

神の律法を守っていると公言しながら、なお心では罪にふけっている人々は、まことの証人に責められている。彼らは真理の知識において豊かだと主張するが、その聖なる原則と調和していない。真理は彼らの生活を聖化していない。神のみ言葉は自分の信仰と矛盾した生活を送る自称律法遵守者を、目の見えない者、あわれな者、貧しい者、裸な者だと宣言している。

神の律法は、人のありのままの完全な映しを提示し、彼の前に正しい姿を掲げる鏡である。ある人は背を向けてこの光景を忘れてしまうが、他の人はあたかもそうすることで自分たちの品性の欠点が治るかのように、律法に対して口汚いののしり言葉を用いる。また律法によって有罪を宣告される他の人々は、自分たちの不法を悔い改め、キリストの功績を信じる信仰を通して、クリスチャン品性を完成する。」（信仰と行い 31）

- b. はっきりとした霊的な識別力は神のご臨在の証拠であると考えられていた例を挙げなさい。ソロモンの祈りの主題は何でしたか。またなぜこれは主を喜ばせましたか（列王記上 3:9, 10）。

「神はソロモンの祈りをおほめになった。そしてこのお方は信仰とへりくだりのうちにご自分に助けを求める人々の祈りをお聞きになり、おほめになる。このお方はたしかに奉仕の準備のための熱烈な祈りにお答えになる。祈りに答えてこのお方は、わたしはここにいて、あなたはわたしに何をしてほしいのか、と言われる。」（バブル・コメント [E. G. ホットコメント] 2 巻 1026）

3. 類似点

- a. イエスは、視覚の啓発が漸進的な働きを含む可能性をどのように示されましたか（マルコ 8:22-24）。ラオデキヤにおける霊的な類似点を説明しなさい。

「教会にいる多くの人々は、木が歩いているように人を見ていることがわたしに示された。彼らが敵の網に自分たちをとらえようと広げられたわなを見分けるためには、さらに深い経験をしなければならない。今中途半端な働きがなされてはならない。」（セレクトド・メッセージ 2 卷 395）

「日ごとに神の事柄に経験のない人々は……光を誤謬と間違え、もっともらしい誤謬を光だと宣言し、幻覚を現実と、また現実を幻覚と取り違え、世界を原子と、また原子を世界と呼ぶであろう。……イエスは人間を木が歩いているように見るのではなく、すべてをはっきりと見ることを求めておられる。」（伝道 593, 594）

- b. 盲人の癒しの時のように、キリストの目薬を特別に塗ることは、どのように教理的な理解や、改革、またすべての忠実な信徒たちの間の一致をもたらす鍵となりますか（マルコ 8:25; エペソ 4:11-16）。

「真の宗教、唯一の聖書の宗教、すなわち、十字架にかけられ、よみがえられた救い主の功績を通してのみ許しがあることを教え、神の御子の信仰による義を支持する宗教は、軽視され、反対して語られ、嘲られ、拒まれてきた。それは熱狂や狂信に導くものとして非難されてきた。しかし、唯一魂を良いわざの実り豊かなものとするのは、魂のうちのイエス・キリストの命であり、聖霊によって与えられる活動的な愛の原則なのである。キリストの愛は、かつて人間の唇によって語られたすべての神のためのメッセージの強さであり、力である。もしわたしたちが信仰の一致に到達しないなら、いったいわたしたちの前にはどのような将来が待ち受けていることであろう。

わたしたちがキリストの祈られた信仰の一致において結合するとき、サタンの代理人を通して長く続けられてきたこの争闘は終わりを告げる。そして、霊的な事柄を見分ける識別力がないがゆえに、人が世の順序に従って計画を立てるのを見ることがなくなる。彼らは今、木が歩いているように人を見ている。そして、彼らが神のご覧になるように見て、キリストが働かれたように働くためには、神聖な一触が必要である。そのとき、シオンの見張り人は一致してラッパの音をはっきりとより大きく響かせるようになる。」（牧師への証 468）

4. 重要不可欠な識別力

- a. 特別にこの最後の時代のすべてが混乱した中で、神の働き人の最も厳粛な責任の一つは何ですか（エゼキエル 44:23）。

「目薬はわたしたちが善と悪を識別できるように、またいかなる外観の下にあっても罪を感知できるようにさせる知恵と恵みである。神はご自分の教会に目をお授けになった。この目に知恵の油を塗り、はっきりと見るように要求なさる。しかし、多くの人々はもしできるなら、教会の目を取り除きたいのである。なぜなら、彼らは自分たちの行いが明るみに出て譴責されることを望まないからである。」（教会への証 4 巻 88, 89）

「わたしたちははなはだ気をつけて、神のみ前にへりくだって歩むべきである。それは神の聖霊の働きを、手に負えない放縦と狂信へ導く霊の働きから見分けることができるように霊的な目薬を持つことができるためである。『あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである』（マタイ 7:20）。キリストを本当に眺めている人は、主の霊によって、このお方のみかたちに変えられていく。そしてキリスト・イエスにある満ちみちた男女の高さにまで成長するのである。神の聖霊は、愛と純潔を人に吹き込む。そして精錬さが彼らの品性に表されるようになる。」（セレクトド・メッセージ 1 巻 142）

- b. 霊的な識別力を発達させる結果、そして各々わたしたちになされている訴えを述べなさい（伝道の書 8:5）。

「目薬はあなたがサタンの策略を認めてそれらを遠ざけ、罪を認めてそれを憎み、真理を認めてそれに従うことができるようにさせる霊的な識別力である。」（教会への証 5 巻 233）

「敬神的な精神は、心が神の力によって保たれなければならないことを悟る。奉仕する御使たちは、神聖な律法と、自然界における不思議な事柄を認めるために、聖霊によって思いと心の目を開く。」（今日のわたしの生涯 291）

「神はすべての人にその働きをお与えになっており、だれも他の人の働きをその人のためにしてあげることはできない。ああ、あなたが個人的に目薬を塗り、自分の品性の欠点を認め、神の愛を締め出しているあなたの世の愛を神がどのようにご覧になっているか悟ることができればよいのだが。」（教会への証 4 巻 615）

5. 祈ることと働かせること

- a. 悲しいことに、なぜ多くの人々は天の目薬を塗ってもらうことをせずに滅びのですか（コリント第一 2:14）。

「今日、信任の地位にある人々は、あらゆる場所において教会とそれに関わるすべてのことの純潔の忠実な保護者となるべきである。ああ、わたしたちは鋭い識別力とはっきりとした霊的な視力を非常に必要としている！この罪と蔓延した悪の時代にあって、わたしたちの目は、万事をはっきりと見ることがするために、天の目薬を塗られる必要がある。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1905 年 10 月 26 日）

- b. 識別力という祝福を受けるために、わたしたちの日ごとの祈りと習慣は何であるべきですか（詩篇 119:18; ヘブル 5:14）。

「聖書は、決して祈りなしに研究してはならない。聖霊だけがわたしたちに理解しやすい事柄の重要性を感じさせ、把握しにくい真理を曲解することのないように守ることがおできになる。……

誘惑はしばしば、抵抗できないように思われるが、それは祈りと聖書研究を怠り、誘惑された者がちょうどそのときに神のみ約束を思い起こすことができず、サタンに聖書の武器を持って応じられないからである。しかし、御使たちは神聖な事柄について教えてほしいと願っている人々の周りにいて、大いに必要としているときに、彼らはまさに必要としている真理を彼らの記憶に呼び出してくれるのである。」（キリストを映して 116）

個人的な復習問題

1. なぜわたしたちはラオデキヤへのまことの証人の目薬が必要なのですか。
2. この目薬はどのように塗りますか。
3. なぜ目薬はしみる傾向があるのですか。
4. 多くの人々が今「木が歩いているように人を見」ているいくつかの方法を挙げなさい。
5. 目薬を受ける人々の態度と祈りを述べなさい。

悔い改めと勝利

「すべてわたしの愛している者を、わたしはしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。」(黙示録 3:19)

「神はわたしたちの罪のゆえにわたしたちをあきらめてしまわれることはない。わたしたちは過ちを犯し、御霊を悲しませるかもしれない。しかし、わたしたちが悔い改めて、このお方の許へ悔いた心を持って来るとき、わたしたちを追い返されるようなことはない。」(エレケッド・メッセージ 1 巻 350)

推奨文献： 教会への証 1 巻 141-146

日曜日

12月16日

1. 悔い改めの例

- a. 弟子のペテロの経験から、わたしたちはどのような警告を受けるべきですか (マタイ 26:33, 69-74)。
- b. ゲッセマネの光景は、どのようにわたしたちにかつて経験したことがないほど深い悔い改めをもたらしますか (マタイ 26:33, 69-75; ヘブル 12:3, 4)。

「ペテロは悲しみの人が、悲しみを知ったとき、すなわちその屈辱の時に、このお方を否定した。しかし、後で悔い改めて、新たに改心した。彼は魂のまことの悔悟をいだき、もう一度自分の救い主に自らを捧げた。涙に曇った目で、彼はゲッセマネの園の奥まった場所へ向かった。大変な苦悩のために自分の救い主の毛穴から血の汗がにじみ出たときにそのお方が伏しておられた姿を見た場所に、自ら倒れ伏した。ペテロは、あの恐るべき時にイエスが祈っておられる間、自分が寝ていたことを痛恨の念をもって思いだした。彼の誇り高い心は砕かれ、ついさきほど神のいと子の血の汗の滴でしみのついた地面を、悔悟の涙がぬらした。彼は改心した人となって園を去った。彼はそのとき誘惑されている者に同情する準備ができた。彼はへりくだり、弱く過ちに陥っている人に同情することができた。彼は僭越な者に注意し、警告することができ、そして自分の兄弟たちを強めるのに十分ふさわしい者となった。」(教会への証 3 巻 416)

2. 神の方法へ向き直す

- a. 今日特別に強調することを要求している訓告を一つ挙げなさい(ヨハネ第一 2:15-17)。

「悔い改めるべきことがある。世俗的な思い、利己心、そして貪欲が神の民の靈性と命を食いつくしてきた。

数年来、神の民の危険は、世の愛であった。ここから、利己心と貪欲の罪が生じてきた。」(教会への証 1 巻 141)

- b. なぜ神のみ言葉が真の改心のための鍵なのですか(ヘブル 4:12-16)。

「改心はほとんどの人がありがたく思わない働きである。地に属し、罪を愛する思いが変えられ、キリストの語り尽くせない愛とこのお方の恵みの魅力と神の卓越さを理解するように導かれること、それによって魂が神聖な愛を吹き込まれ、天の神秘にとらえられるようになることは、小さなことではない。彼がこれらのことを理解するとき、かつての生活は嫌気のさす憎むべきものとなる。彼は罪を憎み、神のみ前に自分の心を砕き、キリストを魂の命と喜びとして抱く。彼はかつての楽しみを放棄する。彼は新しい思い、新しい愛情、新しい関心、新しい意志を持つ。彼の悲しみ、願望、愛情は今やまったく新しいものである。肉の欲、目の欲、持ち物の誇りは、それまでキリストより優先されてきたが、今はそれらに背を向け、キリストが彼の生涯の魅力であり、彼の喜びの冠である。……

かつてはうんざりするものに見えた聖潔のわざは、今や彼の喜びである。神のみ言葉は退屈で興味のないものであったが、今は彼の研究主題として選ばれ、勧告者である。それは彼にとって神から記された手紙であり、それは永遠のお方の銘を帯びている。彼の思想、彼の言葉、彼の行いはこの規則に照らされ、試される。彼は命令とそこに含まれる威嚇に震えるが、一方その約束をしっかりとつかみ、それらを自らのものとすることによって自分の魂を強める。彼は今、最も信心深い人々の社会を選び、かつて愛した悪人たちの仲間たちをもはや喜ばない。彼はかつては笑っていた彼らのうちの罪に涙を流す。自己愛と虚無は捨てられ、彼は神にあって生き、良い行いに富む。これが神の要求される聖化である。これに満たないものを、神はお受入れにならない。」(教会への証 2 巻 294, 295)

3. まことの証人の勧告に注意を払う

- a. 自分たちの生ぬるい状態を熱心に悔い改めるとき、わたしたちにはどのような保証がありますか（使徒行伝 3:19, 20）。

「まことの証人の勧告に注意を払いなさい。富んだ者となるために火で精錬された金を、身につけるように白い衣を、そして見えるようになるために目薬を買いなさい。何がしかの努力をしなさい。これらの尊い宝は、わたしたちの側の何らかの努力なしに降ってくることはない。わたしたちは買わなければならない—自分たちの生ぬるい状態を『熱心になって悔い改め』なければならない。わたしたちは自分たちの悪いところを調べ、自分たちの罪を探り、それらを熱心になって悔い改めるために目覚めなければならない。

わたしは財産をもっている兄弟たちは、これらの地上の宝を引き離し、自分たちの世の愛着を克服するための働きがあることを見た。この世を愛する彼らの多くの人々は、この世を愛し、自分たちの宝を愛しているが、それらを認めたくない。彼らは真理の愛が他のすべてを飲みつくすように、自分たちの利己的な食欲を熱心になって悔い改めなければならない。わたしは富をもっている人々の多くが、金と白い衣と目薬を買わないことを見た。彼らの熱心さには、追及している目的の価値に見合った努力と真剣さが無い。

わたしはこれらの人々が地上の財産のために奮闘しているときに、まもなく過ぎ去ってしまう地上の宝を手に入れるために、なんという熱心さ、なんという真剣さ、なんという精力を表すかを見た。彼らはなんと冷静な計算をしたことであろう。彼らは地上の宝のために早くから遅くまで計画を立て、骨を折り、そして自分たちの安逸と慰めを犠牲にする。金と白い衣と目薬を得るためにそれに見合った彼らの側の熱心さがあれば、これらの望ましい宝と命、しかも神の国における永遠の命を彼らに所有させたことであろう。わたしはもしだれか目薬を必要としているとすれば、それは地上の財産を持っている人々であることを見た。彼らのうち多くの人々は自分自身の状態に対して盲目であり、自分がしっかりとこの世を握っていることにに対して盲目である。ああ、彼らが見ることができればよいのだが。

『見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはそこにはいつ彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう』（黙示録 3:20）。わたしは多くの人々が自分たちの心の戸のところに多くのごみを積み上げており、戸を開けることができないのを見た。ある人々には自分自身と自分の兄弟の間に取り除くべき難問があった。他の人々は戸を開くことができる前に、取り除くべき悪い気質、利己的な食欲があった。他の人は自分たちの心の戸の前に世が丸めてあり、それが戸をふさいでいる。これらのごみはみな取り除かれなければならない。それから彼らは戸を開けて、救い主をお迎えすることができるのである。』（教会への証 1 卷 142, 143）

4. 勝利へ導く行程

- a. 神の民の間の霊的な勝利にとってどの理解と仕事が鍵となりますか（イザヤ 55:8, 9; 58:1）。ある人々はこの現実を避けようとしてどのように欺かれていますか（列王記上 18:17）。

「ある人々は、自分たちの誘惑された状態において、神の民の困難と困惑をわたしたちが彼らに与えた譴責の証のせいに行っている。彼らは問題は警告のメッセージを担う人々、すなわち民の罪を指し示し、彼らの過ちを正す人々にあると考えている。多くの人々は魂の敵に欺かれています。彼らはホワイト兄弟と姉妹の働きは、彼らが絶えず悪を責め、罪を譴責するのでなければ、受け入れられると考えている。……

ある人々は、わたしたちが欺かれていて、自分たちが正しいのではないかとうめばれて、わたしたちが担うようにと神がお与えになった証を受け入れない。彼らは神の民は率直な扱いも譴責も必要ない、むしろ神は彼らと共におられると考えている。これらの誘惑された者たちは、その魂がいつも忠実な罪の譴責者と闘っており、次のように叫ぶ、『わたしたちに耳ざわりのよいことを語れ』。これらの人々はラオデキヤへ向けたまことの証人のメッセージをどのように判断しているのであろうか。ここに欺瞞はあり得ない。このメッセージは神の僕によって生ぬるい教会に対して担われなければならない。それは神の民を、神のみ前にある自分たちの本当の立場に関する彼らの安心と危険な欺瞞から目覚めさせなければならない。この証は、もし受け入れられるならば、行動を起こさせ、自己を低くし罪を告白するよう導くのである。……

神の民は自分たちの悪を認め、立ち上がって熱心に悔い改め、自分たちをこのように貧しく、目が見えず、あわれで、恐るべき欺瞞の嘆かわしい状態に陥れたこれらの罪を熱心になって悔い改め、取り除かなくてはならない。わたしは鋭い証が教会の中で生きていなければならないことを示された。これだけがラオデキヤへのメッセージに答える。過ちは譴責され、罪は罪と呼ばれ、悪は速やかに断固として処置され、民としてわたしたちの中から取り除かれなければならない。」（教会への証 3 巻 258-260）

- b. わたしたちがキリストに心の戸を開くことに同意するとき、何が起こりますか（黙示録 3:20 後句）。

「わたしたちが罪を放棄し、自分たちの罪深さを認めることに同意するや否や、魂と救い主の間の障壁は取り除かれる。」（ヘレデッド・メッセージ 1 巻 325）

5. 癒しと神に受け入れられること

- a. ラオデキヤへのメッセージには、どのような希望に満ちた慰めのメッセージが伴っていますか (黙示録 3:19; エレミヤ 3:22, 23)。

「ああ、愛、神の驚くべき愛よ!ことごとくこのわたしたちの生ぬるさと罪の後で、このお方は、『わたしに立ち返れ、そうすればわたしはあなたがたに帰り、ことごとくあなたがたの背信を癒そう』と言われる。これは何回も御使によって繰り返された。『わたしに立ち返れ、そうすればわたしはあなたがたに帰り、ことごとくあなたがたの背信を癒そう』。

わたしはある人々が喜んで帰るのを見た。他の人々はこのラオデキヤ教会へのメッセージが彼らにその影響力を持たせないようにする。彼らはいつの間にか過ぎ去り、以前と同じようにながら時間経ってから、主の口から吐き出されるのである。熱心になって悔い改める人々だけが神の恩寵を得る。

わたしたちは勝利できる。しかり、十分に、完全に。イエスはわたしたちに逃れの道を備えるために死なれた。それはわたしたちがすべての悪い気質、すべての罪、すべての誘惑に打ち勝つためであり、ついにはご自分と共に座するためであった。

信仰と救いを得るのはわたしたちの特権である。神の力は減じていない。このお方の力は、今もかつてとまったく同様に惜しみなく授けられる。わがものと主張する信仰を失い、ヤコブが『わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません』と叫んだときのように (創世記 32:26)、格闘する精力を失ったのは教会である。耐え忍ぶ信仰は死滅しつつある。それは神の民の心の中に復活しなければならない。神の祝福を主張しなければならない。」 (教会への証 1 巻 143, 144)

個人的な復習問題

1. わたしたちはペテロが自分の経験から得た勝利から何を学ぶべきですか。
2. 本物の改心にはどのような実が伴いますか。
3. 心の戸をふさぐものとなり得る障害物をいくつか挙げなさい。
4. なぜ譴責のメッセージはまた希望のメッセージでもあるのですか。
5. ラオデキヤへまことの証人によって差し出されている希望を説明しなさい。

無我の礼拝者

「わたしたちの行った義のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって……わたしたちは救われたのである。」(テトス 3:5)

「イエスの最も近くで生きている人々は、最も深く自分自身の無価値さを感じる。そして、彼らの唯一の希望は、十字架につけられよみがえられた救い主の功績にある。」(彼を知るために 125)

推奨文献： キリストの実物教訓 390-404

日曜日

12月23日

1. 感謝に浴する

- a. 神が見たいと望んでおられる礼拝の種類を、キリストはどのように述べられますか (ヨハネ 4:23)。

「わたしたちの神はねたむ神であられ、このお方は霊とまことと、聖潔の麗しさのうちにご自分を礼拝するように要求される。」(教会への証 5 巻 592)

「わたしたちの心が、詩篇や讃美や霊的な歌の中ばかりでなく、わたしたちの生活においても、自分たちの造り主を讃美することに向けられるとき、天と調和して生きるようになる。……心のうちにも家庭にも、個人的にも公の礼拝でも感謝があるようになる。これがまことの神の礼拝である。」(彼を知るために 322)

- b. まことの礼拝は、どのような理解を与えますか (テトス 3:5-7)。

「あなたは自分が罪びとだから神から祝福を受ける望みがないとでもお思いになるだろうか。キリストは罪びとを救うためにこの世においてになったのだということを覚えなさい。」(ミスト・オブ・ヒーリング 40)

2. だれが名声に価値するか？

- a. わたしたちは何の目的のために創造されましたか—そして神はわたしたちに永遠の命を与えたいとのご自分の願いのうちに何をお考えになりますか (エペソ 2:4-10)。

「わたしたち自身のうちには、なんら誇るどころはなく、自己賞揚のなんの根拠もない。わたしたちの唯一の希望は、キリストの義がわたしたちに被せられることで、それは、わたしたちのうちに働き、わたしたちを通して働いてくださる聖霊の働きによるほかはない。」(キリストへの道 83)

- b. 墮落した人類の性質の主なわなを逃れるために、わたしたちの目は何に焦点が合っていないかなりませんか (エレミヤ 9:23, 24)。

「イエスは、教会の弱点とのろいとなるのは、自己を義とする精神であることを認められた。……わずかの進歩しかないのに、高慢になって、優越感をいづくものが多い。彼らは、人の賞賛を求め、自分が最も重要視されないと、人をねたむのである。キリストは、こうした危険から弟子たちを守ろうとなされた。

自分の功績を誇ることは、すべて見間違いである。〔エレミヤ書 9:23,24 引用〕。

報酬は、働きによるものではなくて、全く恵みによるものである。」(キリストの実物教訓 379,380)

「愛は、真理を喜び、うらみがましい比較を試みない。愛をもっている者は、ただキリストのうるわしさと自分の不完全な品性とを比較するだけである。……

高慢と自己満足にふけると、必ず、働きはそこなわれるのである。

わたしたちの働きを神に受けいれられるものにするのは、働きの時間の長さではなくて、働きを喜んで、忠実にする精神である。わたしたちのすべての働きにおいて、自己を全く降伏させることが要求されている。真心から、おのれを忘れて行なった最も小さな義務は、利己心に汚された最も大きな働きよりも、神に喜ばれるのである。神は、わたしたちが、どれほどキリストの精神を抱いているか、また、わたしたちの仕事がどれほどキリストのみ姿をあらわしているかをぞらんになる。神は、仕事の量よりも、わたしたちの仕事に対する愛と忠実さのほうを尊重されるのである。

利己心が死に、首位を争う心が消え、心に感謝が満ち、愛が生活をかぐわしいものとするそのときこそ、キリストが魂のうちに宿り、わたしたちは、神と共に働く者として認められるのである。」(同上 380, 381)

3. 愛のうちに歩む

a. キリストを信じる真の信徒のかぐわしい歩みを述べなさい (エペソ 5:1-4)。

「罪人は義認の手段として自分自身の良い行いに頼ることはできない。彼は自分のすべての罪を捨てての地点まで来て、次々とある程度の光が自分の道を照らすたびに大事にしなければならない。彼は単純に信仰によってキリストの血によって備えられた無償にして十分なものをつかむ。彼は神の約束を信じる。その約束を通してキリストが彼の聖化となり、義となり、贖いとなられるのである。そしてもし彼がイエスに従うなら、彼は光うちを謙遜に歩み、光のうちに喜び、その光を他の人々に放散するのである。信仰によって義認され、彼は自分の全生涯において従順のうちに快活さをたずさえている。」(パウル・コメンリ [E.G. 初作コメン] 6 巻 1071)

b. 経験的なクリスチャン生涯はどのように要約されていますか (ミカ 6:8)。

「真の礼拝は本質的にキリストと共に働くことにある。」(クリスチャンの奉仕 96)

「わたしたちが神に受け入れられるのは、ただこのお方の愛する御子を通してのみ保証されており、よい行いはこのお方の罪を許す愛の働きの結果にすぎない。それらはわたしたちの功績ではない。そして自分たちの魂の救いにおける役割を主張できるような良い行いのためにわたしたちがほめられるものは何もない。救いは信じる者へ、ただキリストのためにその人に与えられる神の無償の賜物である。悩む魂はキリストを信じる信仰を通して平安を見出すことができ、そしてその平安は、彼の信仰と信頼に比例する。彼は自分の魂の救いを嘆願して自分の良い行いを提示することはできない。

しかし、良い行いには本当の価値がないのであろうか。刑罰を受けずに毎日罪を犯している罪人は、キリストを信じる信仰を通して自分の高潔さのうちに働こうとしているものと同じ恩寵をもって見られているのであろうか。聖書は、『わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである』(エペソ 2:10)。神の神聖な取り決めのうちに、価値のない者へのご自分の恩寵を通して、主は良い行いが報いられるように定められた。わたしたちはキリストの功績を通してのみ受け入れられる。そしてわたしたちが実行する憐れみの行為、愛の行いは信仰の実である。そして、それらはわたしたちにとって祝福となる。なぜなら、人は自分の行いに応じて報いられることになるからである。」(パウル・コメンリ [E.G. 初作コメン] 5 巻 1122)

4. 实际的な信心

- a. 一人ひとりの信徒に向けられているキリストの高い召しを述べなさい (マタイ 5:14-16; ガラテヤ 5:5, 6)。

「キリストを最も多く愛する者は最も多くよいことをする。自我を捨てて、聖霊が心に働かれる余地をつくり、神にまったく献身した生涯を送る者の有用さには限りがない。もし人々が、不平を言ったり、途中で弱ったりしないで、必要な訓練に耐えるなら、神は日々に、時々刻々に彼らを教えてくださる。神はご自分の恵みをあらわそうと熱望しておられる。もし神の民が障害をとり除くなら、神は人間という水路を通して救いの水の豊かな流れをそそがれる。もしいい身分の人たちを励まして彼らのできるよいことをさせるならば、またもし彼らの上にその熱意をおさえるような抑制の手がおかれなければ、いまキリストの働き人が一人しかいないところから百人の働き人がいるであろう。

もし人々が神に屈服するならば、神は彼らをそのままに受け入れて、ご自分の奉仕のために彼らを教育される。神のみたまが魂に受け入れられるとき、その魂のあらゆる才能がめざませられる。あますところなく神にささげられた心は、聖霊のみちびきのもとに、調和のとれた発達をとげ、神のご要求を理解しこれを果すように力づけられる。動揺しがちな弱い性格は、力強い、しっかりした性格に変えられる。ふだんの献身によって、イエスと弟子との間に密接な関係が結ばれ、そのクリスチャンは心と品性がキリストのようになる。キリストとつながることによって、彼はもつとはっきりした、もっと広い見解を持つようになる。彼の判断力はますます鋭くなり、その意見は一層つりあいのとれたものとなる。キリストのために役立ちたいと熱望する者は、義の太陽キリストのいのちを与える力によって活気づけられ、神の栄えのために豊かな実を結ぶことができる。」(各時代の希望上巻 311, 312)

「真の品性は、外部から形づくられて着せられるものではなく、内部から輝き出るものである。もしわれわれが人を義の道にみちびこうと望むなら、義の原則がわれわれ自身の心のうちに宿っていないとてならない。われわれの信仰告白は、宗教の理論を公言するかもしれないが、真理のこぼれを示すものは、われわれの実際の敬虔さである。矛盾のない生活、きよい行状、変らない誠実、積極的で情深い精神、敬虔な模範—こうしたものが世に光を伝える手段である。」(同上 12)

5. 最終的な光線

- a. どのような方法と、どのような態度をもって、わたしたちは人類に対する神の最終的なメッセージを効果的に広めるチャンスを唯一持つことができますか（ルカ 17:3-10）。

「あわれみに満ちた最後の光、世界に伝えるべき最後のあわれみのメッセージは、神の愛のご品性の啓示である。神の子らは、神の栄光をあらわさなければならない。彼らは、その生活と品性において、神の恵みが彼らのためにどんなことをなしたかを表わさなければならない。

義の太陽の光はよい行ない、一真のことは、清い行ないなどによって、輝き出なければならない。」（同上 392）

「わたしたちの良い行いを神に受け入れられるものとするのは、キリストの功績の香りである。そして、わたしたちがこのお方の報いて下さるわざをなすことができるようにするのは恵みである。わたしたちの行いのうちにもそれ自体にも何の功績もない。わたしたちがなし得ることをすべてなし終えたとき、わたしたちは自らをふつつかな僕だとみなすのである。わたしたちは神から感謝される価値がない。わたしたちはなすべき自分たちの義務をなしたにすぎず、わたしたちの行いは、自分自身の罪深い性質の力ではなしえなかったのである。

主はわたしたちがご自分に近づくようにと命じておられる。そうすればこのお方はわたしたちに近づいて下さる。そしてこのお方に近く引き寄せられて、わたしたちはこのお方のみ手から報いを受けることになるこれらの行いをなすための恵みを受けるのである。」（パウル・コメンリ [E. G. 柯イトコメント] 5 巻 1122）

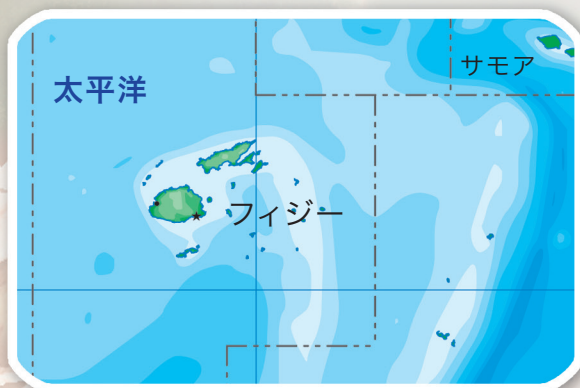
- b. 永遠にわたって、どの究極的な思想が最も明るく輝きますか（ゼカリヤ 13:6）。

「〔イエスのみ手の〕ひとつひとつの釘のあとは、人間の贖罪の驚くべき物語と、そのために払われた高価な値とを語るものである。」（初代文集 305）

個人的な復習問題

1. なぜキリストへの奉仕において、感謝がはっきりと要求されているのですか。
2. 天の光はこの闇の世においてどのように広められますか。
3. ほんの小さな誇りがわたしたちの経験に忍び込むとき、何が起こりますか。
4. キリストの生涯における信仰と行いの間にある関係を説明しなさい。
5. 地のための最終的なメッセージは何ですか。そして天における主題は何ですか。

第一安息日献金



10月6日

フィジーの礼拝堂のために
(4 ページ参照)

11月3日

ミッションフィールドのための
出版物
(25 ページ参照)



12月1日

アルバニアの礼拝堂のために
(46 ページ参照)